

摂津市議会

# 駅前等再開発特別委員会記録

平成25年3月18日

摂津市議会

# 目 次

駅前等再開発特別委員会

3月18日

会議日時、場所、出席委員、説明のため出席した者、出席した議会事務局 職員、審査案件 .....	1
開会の宣告 .....	2
市長あいさつ	
委員会記録署名委員の指名 .....	2
議案第1号所管分、議案第9号所管分の審査 .....	2
補足説明（都市整備部長）	
質疑（弘豊委員、森西正委員、大澤千恵子委員、上村高義委員、三好義治委員、 渡辺慎吾委員）	
採決 .....	43
閉会の宣告 .....	43

## 駅前等再開発特別委員会記録

### 1. 会議日時

平成25年3月18日(月) 午前10時 開会  
午後2時36分 閉会

### 1. 場所

第二委員会室

### 1. 出席委員

委員長	藤浦雅彦	副委員長	渡辺慎吾	委員	大澤千恵子
委員	上村高義	委員	弘 豊	委員	森西 正
委員長	三好義治				

### 1. 欠席委員

なし

### 1. 説明のため出席した者

市長	森山一正	副市長	小野吉孝
都市整備部長	吉田和生		
都市計画課長	新留清志	同課参事	品川明輝

### 1. 出席した議会事務局職員

事務局局次長	藤井智哉	同局書記	田村信也
--------	------	------	------

### 1. 審査案件

議案第1号 平成25年度摂津市一般会計予算所管分  
議案第9号 平成24年度摂津市一般会計補正予算(第5号)所管分

(午前10時 開会)

○藤浦雅彦委員長 おはようございます。  
ただいまから駅前等再開発特別委員会を開催します。

理事者から挨拶を受けます。

森山市長。

○森山市長 おはようございます。  
卒業式等々何かとお忙しいところを駅前等特別委員会を開催いただきまして、ありがとうございます。

本日は、先日の本会議で当委員会に付託されました案件についてご審査をいただきますが、何とぞ慎重審査の上、ご可決賜りますよう、よろしくお願ひします。

一旦退席させていただきます。

○藤浦雅彦委員長 挨拶が終わりました。  
本日の委員会記録署名委員は、渡辺委員を指名します。

審査の順序につきましては、議案第1号所管分及び議案第9号所管分を一括で審査することに異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○藤浦雅彦委員長 異議なしと認め、そのように決定しました。

暫時休憩します。

(午前10時1分 休憩)

(午前10時2分 再開)

○藤浦雅彦委員長 再開します。  
議案第1号所管分及び議案第9号所管分の審査を行います。

補足説明を求めます。

吉田都市整備部長。

○吉田都市整備部長 おはようございます。

それでは、議案第1号、平成25年度摂津市一般会計予算所管分のうち、都市整備部における本委員会に付託されております内容につきまして、目を追って主なものについて補足説明をさせていただきます。

まず、歳入でございますが、予算書の38ページをお開き願ひします。

款14、国庫支出金、項2、国庫補助金、目4、土木費国庫補助金、節3、都市計画費補助金では、社会資本整備総合交付金で社会資本総合整備計画に位置づけ、千里丘西地区市街地再開発準備組合が千里丘西地区再開発の事業化に向けて街区整備計画(案)の策定によりまして、関係権利者の合意形成活動のためのまちづくり初動期活動が行われることに対しまして、国から市に対して補助金でございます。

続きまして、歳出でございます。予算書の148ページをお開き願ひします。

また、あわせまして予算概要90ページから92ページをご参照願ひします。

款7、土木費、項4、都市計画費、目2、街路事業費では、節8、報償費、節9、旅費、及び節11、需用費のうち、阪急正雀駅前地区整備支援事業、阪急京都線連続立体交差事業及び吹田操車場跡地まちづくり事業にかかわる事務経費でございます。

節12、役務費は手数料284万円の記載のうち、吹田操車場跡地まちづくり事業の新設都市計画道路整備に係る用地買収に伴います不動産鑑定評価手数料が120万円と、そして、保険料1万円の記載のうち、阪急正雀駅前地区整備支援事業における市民活動に係る保険料が4,000円でございます。

新設都市計画道路につきましては、吹田操車場跡地まちづくり事業に関連する土地区画整理事業により新設される都市計画道路であり、平成28年春を目標といたしまして、千里丘ガード側道部に接続されることとなります。この都市計画道路の名称に関しましては、大阪府からの指導によりまして、吹田市域内の都市

計画道路における起終点の整理及び両市に類似名称路線が存在するため、岸部千里丘線を新たに千里丘中央線へ変更いたしましたものでございます。

なお、この名称の変更につきましては、都市計画手続が必要でありますことから、先般の平成25年2月6日の第19回摂津市都市計画審議会におきましてご同意をいただき、同2月12日付、都市計画決定告示により正式に名称が変更となっておりますことをあわせてご報告させていただきます。

この新設される都市計画道路千里丘中央線がJR千里丘駅西口付近の千里丘ガード側道部に接続されることによりまして、駅西口周辺における歩行者等の安全な交通動線の確保が必要でありますことから、この歩道の整備にかかわる事業用地などの不動産鑑定評価に係る手数料でございます。

節13、委託料のうち、物件補償算定委託料850万円の記載のうち、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る千里丘中央線が千里丘ガード側道部に接続されますことによりましてJR千里丘駅西口付近の歩道の整備に係る物件補償算定に係る委託料が300万円でございます。

次に、道路測量設計委託料は、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る千里丘中央線が千里丘ガード側道部に接続されることによりまして、JR千里丘駅西口付近の歩道などの整備及び吹田操車場跡地まちづくり区域に隣接する正雀下水処理場機能停止後における同処理場跡地東側の道路環境整備に図るため、土地区画整理事業で整備される区画街路12号線と既存道路とを接続する市道千里丘78号線の整備に係る委託料で、そして、連続立体交差事業調査委託料は市民協働による地元懇談会の実施や市民意見を採り入

れた沿線周辺の関連まちづくりの検討など、阪急京都線連続立体交差事業に係る委託料でございます。

節17、公有財産購入費は土地購入費4,400万円の記載のうち、吹田操車場跡地まちづくり事業に関連して千里丘中央線が千里丘ガード側道部まで接続されることによりまして、千里丘駅西口付近の歩道の整備のための土地購入に係る費用が900万円でございます。

節19、負担金、補助及び交付金のうち、大阪府連続立体交差事業協議会負担金及び連続立体交差事業調査負担金は阪急京都線連続立体交差事業に係る負担金で、そして、吹田操車場跡地まちづくり計画委員会負担金、吹田操車場跡地土地区画整理事業負担金及び千里丘公園整備負担金は吹田操車場跡地まちづくり事業に係る負担金でございます。

続きまして、150ページをお開き願います。また、あわせてまして予算概要の94ページをご参照願います。

目5、再開発事業費では、節8、報償費、節9、旅費、節11、需用費は千里丘西地区市街地再開発支援事業に係る事務経費でございます。

節19、負担金、補助及び交付金は、先ほど歳入の社会資本整備総合交付金の項目でご説明いたしましたとおり、千里丘西地区再開発の事業化に向けての、まちづくり初動期活動といたしまして、千里丘西地区市街地再開発準備組合におきまして再開発計画及び事業採算性の検討を行うための街区整備計画(案)の策定、関係権利者の合意形成活動の取り組みに対する摂津市再開発推進団体等補助金交付要綱に基づきまして、国からの補助金と合わせて市が準備組合に対して取り組みを支援するための補助金でございます。

以上、平成25年度摂津市一般会計予

算にかかわります予算内容の補足説明とさせていただきます。

続きまして、議案第9号、平成24年度摂津市一般会計補正予算（第5号）所管分のうち、都市整備部における本委員会に付託されております内容につきまして、目を追って主なものについて補足説明をさせていただきます。

まず、歳出でございますが、補正予算の62ページをお開き願います。

款7、土木費、項4、都市計画費、目2、街路事業費では、節8、報償費、節9、旅費、節11、事業費のうち、阪急正雀駅前地区整備支援事業、吹田操車場跡地まちづくり事業及び阪急京都線連続立体交差事業に係る事務経費の執行差金でございます。

節12、役務費は手数料121万8,000円の記載のうち、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る千里丘中央線の整備に伴います用地等の不動産鑑定評価に係る手数料7万8,000円については経費の執行差金でございます。

次に、64ページをお開き願います。

節13、委託料のうち、物件補償算定委託料628万6,000円の記載のうち、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る千里丘中央線の整備に伴います物件補償算定に係る委託料68万6,000円は、経費の執行差金により減額いたすものでございます。

次に、道路測量設計委託料では、当初、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る都市計画道路千里丘中央線の整備及び正雀下水処理場東側道路の整備に係る道路測量設計等に係る委託料を考えておりましたが、千里丘中央線の用地買収に伴います測量分筆業務にかかわる一部の執行見込み額以外を減額するものでございます。

また、連続立体交差事業調査委託料で

は、地元とのまちづくりにかかわります懇談会などの開催を考えておりましたが、阪急京都線連続立体交差事業に対する国及び大阪府の明確な方針が示されなかった関係から実施に及ばなかったため、全額を減額いたすものでございます。

節17、公有財産購入費は吹田操車場跡地まちづくり事業に係る千里丘中央線の整備に伴います土地購入費に係る経費の執行差金でございます。

節19、負担金、補助及び交付金は、吹田操車場跡地まちづくり計画委員会負担金では、今年度開催されなかったことにより、全額を減額いたすものでございます。

また、吹田操車場跡地土地地区画整理事業負担金では、国の緊急経済対策の実施によりまして、吹田操車場跡地土地地区画整理事業に対する補助金が増額されたことに伴いまして、本市負担分に係る増額が必要となったものでございます。

節22、補償、補填及び賠償金は、吹田操車場跡地まちづくり事業に係る千里丘中央線の整備に伴います物件移転補償費に係る執行差金でございます。

次に、目5、再開発事業費では、節8、報償費、節9、旅費は千里丘西地区市街地再開発支援事業に係る事務経費の執行差金でございます。

続きまして、6ページをお開き願います。第2表、繰越明許費につきましてご説明申し上げます。

5段目、款7、土木費、項4、都市計画費、事業名、吹田操車場跡地まちづくり事業における土地地区画整理事業負担金につきましては、施行者のURが吹田市内における新設都市計画道路を整理するにあたりまして、施工方法等に関して沿道住民との協議、調整に時間を要したため、平成24年度予算額の一部と

今回ご審査いただきます増額補正額とを合わせて平成25年度に明許繰越をさせていただきます。

その下、6段目、同じく吹田操車場跡地まちづくり事業における千里丘公園整備負担金では、施設整備工事の管理棟設置位置におきまして、当初想定しておりませんでした旧河川構造物等の基礎と思われる構造物が埋設されている状況が発見され、管理棟の基礎杭打設に支障が生じたことから、その撤去工事が必要となり時間を要しましたため、平成24年度予算額の一部を平成25年度に明許繰越をさせていただきます。

以上、平成24年度摂津市一般会計補正予算にかかわります補正予算内容の補足説明とさせていただきます。

○藤浦雅彦委員長 説明が終わり、質疑に入ります。

弘委員。

○弘豊委員 おはようございます。

私のほうから、まず最初に数点お聞きしたいというふうに思います。各事業ごとに予算概要でページを追ってますので、ご参照ください。

最初に、90ページ、阪急正雀駅前地区整備支援事業についてなんですが、今回12万3,000円という予算額で前年、前々年と比べると徐々に目減りしてきているというふうなことであります。

内容としては、正雀駅前ワークショップの動きにかかわってるんだというふうに理解しておりますけれども、直近のそのワークショップの状況についてホームページなどで見ましたら、第68回の様子だけ私も目にしたわけなんですけれども、今年の動きと合わせて新年度どうした方向で動いていくのかということでお聞きしておきたいというふうに思います。

次に、同じく90ページで、吹田操車

場跡地まちづくり事業にかかわってです。

この部分では土地購入費の900万円というふうなことであがってまして、先ほどの説明でも千里丘駅前の安全対策にかかわる千里丘中央線の土地購入というふうなことで伺ったんですけれども、この中身について少し詳しくお聞かせいただけたらなというふうに思っております。

それと、補正予算のところで、補正予算書の64ページ、吹田操車場跡地土地区画整理事業負担金の800万円の増額というふうなことで、国の緊急経済対策云々というご説明も今お聞きしましたけれども、どの事業がここに当たるのかというふうなことをもう少し詳しく聞きたいなというふうに思います。

あと、この吹田操車場跡地まちづくり事業にかかわってなんですけれども、国立循環器病研究センターの移転にかかわって先日また新聞報道で吹田市か箕面市かというふうなことも記事が出たのを見たんですけれども、現時点での動向についてどのように見ておられるのか、あわせて聞いておきたいというふうに思います。

次に、阪急京都線連続立体交差事業にかかわります。ここであげられている調査委託料の600万円は、今も説明ありました今年度分を補正で減額して新年度にやられるというふうなことで、中身については去年もお聞きしたことと同じなのかなというふうに思うんですけれども、今回、国や府の事業採択の見込みの点でいうたら、新年度については恐らくやられるというふうなことで思っているというふうに思うんですけれども、中身については以前と同じでよいのか確認というふうなことでお聞きしておきます。

それと、連続立体交差事業調査負担金での540万円です。これがどのような

ものになるのかというようなことをお聞かせください。

最後に、予算概要の94ページになります。千里丘西地区市街地再開発支援事業ですが、今回は再開発推進団体等補助金というようなことで新たに1,500万円の予算もついておるわけなんですけれども、今年度計画されている動きについて具体的に聞いておきたいというふうに思います。

また、この補助金の1,500万円の使われ方についてなども、お聞かせいただけたらというふうに思っております。○藤浦雅彦委員長 答弁をお願いします。

品川都市計画課参事。

○品川都市計画課参事 ただいまの弘委員の質疑に対しまして、吹田操車場跡地まちづくり事業に関する点と阪急京都線連続立体交差事業に関する点につきまして、ご答弁させていただきます。

まず、吹田操車場跡地まちづくりに関しましての1点目ですが、平成25年度に土地購入費を900万円計上させていただいております中身についてです。

区画整理事業の中で、先ほど説明もありました岸部千里丘線を千里丘中央線と名称変更しましたその千里丘中央線が三島千里丘線のガードのところまで接続してきます。その中で、区画整理事業としましては、ガードの上部のところまでが事業区域になっておりまして、今、ガードの上部と言いますのは、歩道もない状況でございます。

ただ、千里丘中央線が歩道もある道路ができる中で、JR千里丘駅への歩行者動線を確保する必要がございますので、今、歩道がない部分、JRのほうで土地を持つ部分というのがございますので、そのJRの土地を購入させていただいて、そこに歩道をつくってJR千里

丘駅の西口への歩行者動線を確保しようという計画をいたしており、そういったことでの土地購入費として、平成25年度に計上させていただいております。

続きまして、平成24年度補正予算で800万円増額しております中身につきましてですが、こちらのほうは政府が行っております緊急経済対策の一環としまして、何とか事業を前倒しできるものがないかという中で、もともと事業を予定しておりました中の埋蔵文化財調査を前倒ししまして、補正予算をいただいて調査を行っていかうということで今回、摂津市の負担としては800万円ということでの増額をお願いしておりますのでございます。

あと、吹田操車場跡地まちづくり関係のもう一点、国立循環器病研究センターの件につきましてですが、代表質問の市長答弁でもございましたとおり、公に出てる情報でしか我々もなかなかつかむ情報というのがありません。昨年6月に国立循環器病研究センター建替整備構想検討委員会のほうでは箕面市のほうが可能性があるという意見が大半であったというものが出たあとに、日々、ホームページ等でチェックを行っているのですが、そのあと国立循環器病研究センター自身が箕面市の船場地区が本当にスケジュール的に可能なかということも含めて可能性調査等を昨年の年末に行っておりまして、その結果等も出てきてないというような状況でございますので、なかなか進展といいますと情報が入ってきてないのが現状でございます。

ただ、市長答弁でもございましたとおり、吹田市正雀下水処理場とクリーンセンター問題が吹田市との間で協定も締結できまして解決いたしておりますので、こういった点では国立循環器病研究セン



ターの移転に弾みがついたものではないかなと担当としては考えておるところでございます。

続きまして、阪急京都線連続立体交差事業の調査委託費600万円につきましては、こちらのほうは、平成24年度の補正予算で減額させていただいて、その分を平成25年度に計上している状況でございます。中身につきましては、昨年度、ご説明させていただいたことと同じでございます。阪急京都線連続立体交差事業に伴う周辺まちづくり計画の検討と住民の合意形成を図ることを目的とし、地元との市民協働による懇談会の開催でありますとか、市民意見を取り入れた沿線周辺の関連まちづくり検討を行っていかうと思っております。

もう一点、調査負担金を540万円計上させていただいております。こちらのほうにつきましては、阪急京都線連続立体交差事業は大阪府が事業主体となって行っていく事業でございます。国費を大阪府が取って事業を行っていかうということで、ずっと国土交通省等とも調整をさせていただいておる中で、来年度は実際に国費が取れそうだということで、大阪府が実施する事業に対して摂津市としての負担金ということで540万円を計上させていただいております。

実際に大阪府がやる事業としましては、国費がついた暁にはということになりますが、まず測量でありますとか、土質調査でありますとか、そのような内容を設計に反映させていくという事業を予定しております。

○藤浦雅彦委員長 新留都市計画課長。  
○新留都市計画課長 1点目の阪急正雀駅前地区整備支援事業について、ワークショップの状況、平成24年度の動きと平成25年度の取り組みはということで

あったと思うんですが、平成24年度につきましては、ワークショップを毎月1回ずつ行いまして、今まで9回ほど実施されてきております。

その中で、今年度につきましては、東日本大震災を受けまして地域防災の意識が高まったことから、ワークショップで話し合われる内容も避難対策などが中心になっております。平成24年11月のワークショップにおきましては、市の防災担当職員も交えて地域防災についての意見交換を実施しております。

それから、平成23年度に実施しました、ました探訪ウォーキングを前回全て回り切れなかったことによりまして、前回の残りのコースで第2回として、ました探訪ウォーキングを今月の24日に実施予定で進めておるところでございます。

この第2回のました探訪ウォーキングについては、現在、ホームページや広報で周知させてもらっております。さらに自治会等へ掲示板、ポスターや校区自治会への回覧チラシについても情報提供をしておるところでございます。

それから、新年度からということですが、平成25年度については、まだ具体的に活動テーマについては決まっておりませんが、地域住民によるまちの活性化を目指して、引き続き我々も支援してまいりたいと考えております。

それから、4点目の千里丘西地区市街地再開発支援事業でございますが、再開発推進団体補助金として平成25年度の予算計上をしております。先般の本会議でも質問が出ておりましたが、具体的に詳細な計画に入っていくということで、街区整備計画(案)の策定に取り組んでいきますという中身であります。

この中身につきましては、関係権利者の合意形成を図るため、関係権利者への

個別意識調査を行ったり事業参画への理解を得るために権利者への広報活動の実施ということで取り組んでおりますニュースの配布とか説明会等を予定しております。

それから、事業化に向けた事業計画素案の作成、これにつきましては、土地利用等を勘案した上で街区の整備計画とか建築施設の整備計画の素案づくり、それから、公共施設の計画、交通動線を踏まえた駅前広場とか道路の計画、これらを加味しまして概算の資金計画等をつくっていくこととなります。

1, 500万円の補助金の使い方についてでございますが、これにつきましては、準備組合のほうがコンサルタントに委託されて基本的にやっていくと。本市も事務組合とともに連携して進めていくというふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 弘委員。

○弘豊委員 それでは、2回目の質疑を行います。

阪急正雀駅前地区整備支援事業にかかわってですが、去年の予算審査の際に、これまでやってるワークショップの動きが生涯学習でやっているような感じなので、もっとまちづくりという観点で取り組むことが大事なんじゃないですかというようにことを要望したかというふうに思うんです。

具体的に正雀駅前の道路改良事業なんかとの兼ね合いで、そうした中身が実際この地域の皆さんたちに伝わって、それでそれに対する声などを吸い上げることができているのかどうかというようにことが大事だというふうに思うんです。

この平成25年の予算の中で、これは建設常任委員会の所管になりますが、債務負担行為で道路改良事業5億5,100万円というように数字もあがっ

てるわけなんです。こうしたこととの兼ね合いで地域住民の皆さんたちの願いに沿った駅前整備になっていくのかどうかというようなあたり、この点での話し合いができているのか、そういう方向にあるのかどうかお聞きしておきたいというふうに思います。

次に、吹田操車場跡地まちづくり事業にかかわってであります。

1つ目にお聞きしたガード上部の歩道の整備、安全対策です。土地購入費の900万円の部分ですけれども、現状でも駅前の交通の状況が大変危なっかしいというようにあるというふうに思うんです。

そうした中で、千里丘中央線の事業にかかわって整備がされていくというふうなことなんですけれども、平成28年にでき上がるというふうなことで今お聞きしたかというふうに思うんですけれども、それまでの対策などもとれないのかなというふうなことが気になりまして、JRの土地というようにありますから、その例えば立ち退きとか云々があるわけでないわけですから、早めることができないうのかどうか、そうした点についてお聞きしておきたいと思います。

あと、補正予算の吹田操車場跡地地区画整理事業負担金、800万円の分については、緊急経済対策にかかわっての事業前倒しということで了解しました。

あと、国立循環器病研究センターのことについても先ほどお聞きしましたが、これにかかわっては、やっぱり今の時点で何とも見通しが立てにくいなというふうなことだろうというふうに思うんですけれども、これに関連して、先日開業しました吹田貨物ターミナル駅の問題などについては影響をどのように見ておられるのかなというふうなことで、あわせて

お聞きしておきたいと思います。

代表質問の際、私どもの会派のほうから、やはりトラックの排気云々の点では今後とも環境影響などの調査というようなことはしっかりやっていかないといけないというようなことを指摘させていただきまし、答弁のほうでも環境影響評価のほうは協定もちゃんと結ばれてるからきちんと調査していきますよというようなことでお聞きしたというふうに思うわけでありませう。

ただ、やはりこれまでの例えば大阪ターミナル駅のトラックの出入りの問題の際とかでも議会の中でも何度か協定の覚書がきちんと守られないみたいなことが指摘されていたというふうに思うんです。

そうした点では、しっかりとそこを守らせていくという点で、吹田市、摂津市とJR貨物による調整会議が行われることになっていくというふうに思うんですが、これがどういうスパンでやられてくのかというふうなあたりについてお聞きしておきたいというふうに思っております。

あと、阪急京都線連続立体交差事業にかかわってです。

調査委託料の分については何度も同じ議論をしても仕方がないと思いますので、しっかりとその住民の皆さんの思いが反映されるような形でのワークショップなり取り組みを進めていっていただきますようというようなことでの要望にしておきます。

連続立体交差事業調査負担金の540万円、これも国費がつけばというようなことで取り組まれていくというようなことで、去年の予算審査の際には、東日本大震災等々の影響が公共事業に影響してくるんだろうなというふうなことなども議論があったかというふうにも思うんで

すけれども、そうしたことについては、今の時点ではどうとらえておられるのか、この点だけ再度確認でお聞きしておきたいと思ひます。

あと、千里丘西地区市街地再開発支援事業にかかわってですが、再開発推進団体等補助金1,500万円の使い方については、主にコンサルタントに委託をして計画を進めていくのにとひいうようなことでお聞きしました。

この開発計画は、なかなか動かないというふうなことで、何度もこの委員会の中でも話は聞くけれども前に進まないというふうなことだったかというふうに思うんですけど、今回は街区整備計画の新しい形態というふうなことで、少し展望が見えるのかなというふうなこともお聞きをしたんですが、その実際に計画を立てていくのはコンサルタントにゆだねていくというふうなことで、従来と進め方の形態については同じようなことになっていきはしないのかなというふうなことが懸念されるんですけども、こうした点については、市のかかわりとして、準備組合が主体として動くんですけども、市としての資金面、技術面での援助というふうなことでこの間、説明では聞いていたかと思うんですけども、そのあたりの点と具体的な進め方について矛盾はないのかというふうなことについて、再度お聞きしたいと思ひます。

○藤浦雅彦委員長 品川都市計画課参事。

○品川都市計画課参事 それでは、弘委員の質疑に答弁させていただきます。

まず、吹田操車場跡地まちづくり事業での土地購入の関係で、今の状況を鑑みて、早目に歩道設置をすることができないのかというご質問についてですが、ま今、JR千里丘駅西口につきましては、確かに交通混雑、歩行者の輻輳等で課題

があるということは我々も認識しております。そういった中での歩行者動線の確保ということで今回の事業を進めているわけですが、区画整理事業で行っております千里丘中央線、こちらのほうができ上がらないことには歩行者としての最終行き先、横断歩道等も含めて警察協議等もある中で、一連ができ上がらないことには一部だけをつくるということは難しい状況でございます。

区画整理事業が平成21年度から事業しております中で、JR岸辺駅を中心にだんだん事業を両側へ展開していったというような事業展開のこともございますので、どうしてもJR千里丘駅近辺につきましては事業の最後のほうになってきます。そこと連携を図って進めていくということになっていきますので、なかなかそこだけを前倒しするということは現状的には難しいかなと考えております。

あと、国立循環器病研究センターに関連して、吹田貨物ターミナル駅についての環境等の監視体制等につきましてですが、先般、代表質問の市長からの答弁でもありましたとおり、環境アセスメントが義務づけられている事業でもございますし、平成18年2月に大阪府、吹田市、鉄道・運輸機構、JR貨物及び本市の5者で着手合意協定書を締結しておりますので、その中に貨物取り扱い量が100万トン以内でありますとか、コンテナ貨車両数が26両以内でありますとか、貨物関連自動車が往復1,000台以内というようなことを協定として定めております。

その中で、例えば貨物ターミナルの入り口等にカウンターを設置して台数を管理したりでありますとか、今も梅田貨物の貨物取り扱い量がトータルで幾らなの

かというような報告等も受けておりますので、そのようなことを通じて我々のほうも監視していくのかなとは考えております。

また、ご指摘ありましたとおり、貨物ターミナル駅開業後に本市と吹田市あわせての調整会議も設置されますので、環境のことでもありますので、環境政策課とも協力してということにはなるかと思っておりますが、調整会議の場等でも監視を行っていくように考えております。

あと、もう一点、阪急京都線連続立体交差事業におきまして、国費が来年度からつけば事業をしていくという中で、昨年度は東日本大震災の影響があったことも踏まえて、どういう状況かということにつきましてですが、まず、大阪府が事業主体となっておりますので、今年度、大阪府が近畿地方整備局を通じて本省のほうに連立の新規事業をやりたいという話をしている中では、年度当初には大震災のあったこのご時世に新規事業とは何事かというような、かなり難色を示されていたという経過がございます。

そのような中でも、大阪府としても事業を進めていきたいということで、近畿地方整備局を通じて、かなりいろいろ資料を提出したりしながら国土交通省の本省の説得を図っております。昨年9月に国土交通省本省が直接話を聞きたいということになり、大阪府が本省に行く際に、本市としましても私が同行させていただきまして、本市のほうからは南千里丘のまちづくり等につきまして、阪急京都線連続立体交差事業関連のまちづくりについて説明させていただき、あと、大阪府の方からは、大阪府としての連立事業の進め方等を説明させていただいた上で、国土交通省本省のほうには、ある程度理解を得られているというのが現状

でございます。

また、先般、セミナーがございまして、その中で国土交通省本省の方が来年度の予算についてお話をするのを聞く機会がございまして、その中でも、今年度まではかなり厳しかったけれども、ある程度のところまでは戻るのではないかというような感覚的な話はされておりますので、国費としてもある程度明るいきざしは見えてきているのかなというふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 吹田貨物ターミナル駅に関する調整会議の開催スパンについて答弁できますか。

品川都市計画課参事。

○品川都市計画課参事 答弁漏れがございまして、申しわけありません。

調整会議がまだ立ち上がっておりませんので、今後どういう回数で行っていくかというスパン等につきましても立ち上ってから議論していく内容になってきます。

○藤浦雅彦委員長 新留都市計画課長。

○新留都市計画課長 まず1点目の阪急正雀駅前地区整備支援事業の件でございますが、正雀駅前の整備事業として平成25年度、土木下水道部のほうで債務負担行為5億5,000万円を計上されておるということで、地域住民の声を反映しているのかということであったと思うんですけども、ワークショップの中でもいろんな方々の意見が出ております。

例えば、バリアフリーの観点から、段差があって車椅子が通りにくいか、今年度につきましては防災面で避難ルートがどうなんだというのも議論されております。

さらに平成21年度におきましては、正雀駅前の安全マップというのをワークショップの中でつくられております。これらの資料を道路交通課へも情報提供し

ておりますので、我々も土木下水道部と連携しながら、ワークショップの意見等を反映していただくように考えておるところでございます。

それから、千里丘西地区市街地再開発支援事業にかかわって、再開発推進団体等補助金1,500万円の使い方でコンサルタントに委託していくということで、市として資金面、技術面についてどういう形でかかわるのかというご質問ですが、先ほど申しあげましたような事業の内容について関係権利者の合意形成を図っていくということで個別の意向調査が、また入っていきます。そういうときには個別面談も当然出てきますので、市も組合の方とコンサルタントも一緒に行って面談を行うと。それから広報活動も同じようなスタイルでやっていくということでございます。

それから、素案のほうなんですけど、市の駅前広場と道路が出てくるわけで、これらにつきましても市のほうで関係機関と協議を行ってこれに反映させていくというような考え方で、コンサルタントに丸投げするのではなく、3者で協力してやっていくという考え方でございます。

○藤浦雅彦委員長 弘委員。

○弘豊委員 そうしましたら、3回目です。大方、要望にしておきます。

阪急正雀駅前地区整備支援事業の部分で言いましたら、市長の市政運営の基本方針の中では、時期を逸することなくその安全確保に向け取り組んでまいりますというようなことで正雀駅前の整備についてはふれられているわけなんですけれども、そこらあたりのところがなかなか具体的にどうなのというふうなことが正雀の地域の方にもまだまだ伝わっていないというふうに思うんです。

そうした点で、このワークショップの

役割が具体的にまちづくりにこういうふうにかかわってるんだというふうなことが感じられるものでなければならないというふうなことで、前にもこれは申し上げたというふうに思うんです。

そうした点では、道路交通課のほうへいろいろ市民の皆さんから寄せられた声を渡すだけでなく、道路交通課のほうも一緒にそのワークショップの中に来てもらってというふうなことが要るんじゃないかなというふうに思っております。そうした取り組みも行っていただけたらなというふうに要望しておきます。

次に、吹田操車場跡地まちづくり事業なんですけれども、この点については、先ほど聞きました吹田貨物ターミナル駅の影響については再度聞いておきたいと思うんですけれども、調整会議が今後どのようなスパンでやられていくのかというのは、今後立ち上げてからでないといけないというご答弁でありました。

いよいよ開業だということで、摂津市よりも、吹田市の方で地域の環境への影響が大変だというふうなこともおっしゃってるというふうに聞いております。摂津市に影響がないかといえばそうじゃないというふうなことで、この間、代表質問等でも議論が進められたかなというふうに思うんですが、その今後どういうふうにかこれを監視していく、調整していくというふうな点については、しっかりと取り組んでいってもらわないといけないというふうに思いますので、そのあたりの認識についてもう一回お聞きしたいのと、貨物ターミナル駅は吹田と百済の両方に3月16日から事業が移行してるというふうになってるんですけれども、貨物の取り扱い量は計画では半々というふうなことで聞いてますけれども、JR貨物のほうでは半々で恐らくやってるとい

うふうに思いますが、必ずしも半々というふうなことではなく、利用されている輸送業者等々があるといったことも一部漏れ聞くわけなんです。そうしたところで吹田、百済それぞれの状況についてもしっかりと把握していかないといけないと思っておるんですけれども、そのあたりのところで、市のほうで計画等をつかんでいるようでしたらお聞きしておきたいと思います。

あわせて、大阪貨物ターミナル駅、従来から摂津市にある新幹線沿いの部分ですけれども、そのこのところへの貨物量の影響なんかもあるんじゃないかなというふうに思うんですが、そうしたものはつかんでおられるでしょうか。もし答弁できるようでしたらお願いしたいです。

あと、阪急京都線連続立体交差事業にかかわる部分ですけれども、東日本大震災での影響についてというふうなことでご答弁いただきました。

東北の状況なんかを聞いていても、なかなか震災の復興が思うように前に進んでないというふうなことが、この3月で2年を迎えても聞くわけであります。

ただ、そうした中でも、この間の緊急経済対策等々で全国の公共事業は前倒しも含めて進めていってるというふうなことも聞く中で、どういうふうに見ておけばいいのかなというふうな点については悩ましいなというふうに思っているんですけれども、一定、国のほうでもこの事業については進めていくというふうな方向性あるようでありますが、実際その進めていく中での事業費の点について、これは、見通しというふうな点では持ちにくいのかなというふうに思いますので、答弁は結構ですので、しっかりとその点については、今後どれぐらいの費用が要るんだろうというふうな点について、そ

のあたりも市民にとっては大事な情報というふうに思いますので、また随時お示しいただけたらなというふうに思います。この点は要望で、答弁は結構です。

あと、千里丘西地区市街地再開発支援事業ですが、これも開発計画についてコンサルタントに丸投げした計画では失敗している事例が多いというようなことは、これまでもご報告聞いていて、市と準備組合とコンサルタントの3者でしっかりと連携して進めるというふうなことの答弁を、今お聞かせいただいたわけですが、しっかりとその中での市の果たすべき役割というのがあるというふうに思いますので、その点について、今後とも鋭意頑張っていたきたいということをお願いしておきます。この点も答弁は結構です。

○藤浦雅彦委員長 品川都市計画課参事。

○品川都市計画課参事 それでは、弘委員の質疑に答弁させていただきます。

吹田貨物ターミナル駅関連での調整会議について、まだ開催がされていないということで、その一言だけでしたので、何も検討がされていないというような言い回しになってしまったかと思えます。非常に申しわけありません。こちらは全く検討していないということではありませんでして、平成18年に覚書を締結している中で、吹田市と摂津市とJR貨物の3者で調整会議の設置に関する覚書を締結しております。この中で、3者で調整会議を開いていきたいと思います。これは吹田貨物ターミナル駅開業日から3か月以内に開くということで覚書締結しております。これにつきましてはJR貨物が音頭を取って調整するというので、吹田貨物ターミナル駅開業前から吹田市とも話を進めております。忘れてるというわけではなくて、開催に

向けて調整を図っているところということでご理解をお願いいたします。

それと、吹田貨物ターミナル駅と同時に百済貨物ターミナル駅も16日にリニューアル開業しております。その貨物の取り扱い量ということにつきましてですが、どちらにつきましても年間貨物取り扱い量は100万トン以内ということで、吹田貨物ターミナル駅につきましても百済貨物ターミナル駅につきましても100万トン以内という決まりの中でやっていくということになります。本当に半々になるのかということまでは我々のほうでも把握はしていないのですが、毎年貨物駅の各駅ごとの年間取り扱い量の情報等もいただいておりますので、そういった情報の中でまた今後わかってくると思っております。

また、大阪貨物ターミナル駅への影響というところは、申しわけありませんが、現状では把握できておりませんので、何ともお答えいたしかねます。申しわけありません。

○藤浦雅彦委員長 弘委員。

○弘委員 ありがとうございます。

今回、吹田貨物ターミナル駅のことでお聞きさせていただいたわけなんですけれども、先日開業してというようなことでの今の現状での変化もありますし、また、これが今後その国立循環器病研究センターの移転にかかわって悪影響になるようなことがあってはならないというふうに私は思っています。

クリーンセンター問題でめどがついて、誘致を前向きに進めていこうというときに、環境問題等々が足を引っ張るようなことになるんじゃないかなというようなことが一部懸念される部分でもあります。そうした点では、住民の健康にかかわる問題というようなこともありますし、しっ

かりと取り組んでもらえるように、これは強く要望を申しておきたいというふうに思っております。

吹田貨物ターミナル駅の今後については、きちんと状況なんかが把握できるような形にできればしていただきたいなというようなことで、これもあわせて要望としておきたいと思っております。

○藤浦雅彦委員長 弘委員の質疑が終わりました。

次に、森西委員。

○森西正委員 それでは、弘委員も今、質疑をされまして、代表質問でも質問させていただいておりますので、もう少し具体的な部分も聞かせていただきたいなというふうに思っています。

予算概要に沿って進めさせてもらいたいと思うんです。

90ページの阪急正雀駅前地区整備支援事業です。弘委員からも質疑がありましたけれども、地元主体のまちづくり活動への支援ということで、だんだんと予算が目減りをしているというふうなことで話をされておられました。

これは地元主体ということで、さまざまされてるといのは今、ご答弁いただいたんですけれども、そうしますと、このまちづくりをしていく上で、いつになれば正雀地区が動いていくのか。今と違う形で進めることになっていくのか、その点、担当としてどのように考えておられるのか、お聞かせいただきたいなというふうに思っています。

続いて、吹田操車場跡地まちづくり事業ですけれども、これ、補正のほうでも16万円の減額ということで、また、平成25年度予算で16万円というふうなことでまちづくり計画委員会の費用が出ております。

平成24年度も予算化していますので、

これは開催をされるということで進めてこられたわけです。平成24年補正予算で減額をして、平成25年でまた改めて出されておられますけれども、これは平成25年度は確実に開催されるというふうなことなのか、お聞かせいただきたいなというふうに思います。

続いて、阪急京都線連続立体交差事業ですけれども、この中でも連続立体交差事業調査委託料600万円、これは平成24年度の補正予算で減額補正をされていて、また、平成25年で600万円を予算化をされておられます。

代表質問のときに、国のほうで補助決定されるということで、現地測量、土地調査などの着工準備に協力して地元説明会では周辺住民の方々とのワークショップを開催する運びとなりますというご答弁いただいているんですけれども、これはワークショップをするに当たっては、補助決定を得なければ進められなかったものなのか、補助決定がなくてもそういうワークショップ、まちづくりの懇談会ですが、これを進められたものなのか、その点についてお聞かせいただきたいなというふうに思います。

続いて、千里丘西地区市街地再開発支援事業にかかわって、再開発推進団体等補助金1,500万円です。先ほどからもご答弁いただいて、コンサルタントを入れて、3者でもって進めていくということでもありますけれども、この点、コンサルタントは比較的、理想で動かれるという部分が多々あって、現実的な動きで作成をしていただかなければならないというふうに思っておるんですけれども、今まで、準備組合でも費用を少し出されておられます。出されておられますけれども、現実はあるような形になっておまして、これは何とか動くような形を進



めていただければならないというふうに思いますけれども、この点、準備組合がコンサルタントを雇われてというふうなことになるのかなというふうには思うんですけれども、現状でどういうふうになっておるのか、これからコンサルタントの方を雇われるのか、街区整備計画（案）をつくられるということですが、その点はもう進んでおるのか、これからの話なのか、お聞かせいただきたいというふうに思います。

○藤浦雅彦委員長 品川都市計画課参事。

○品川都市計画課参事 ただいまの森西委員の2点目の吹田操車場跡地まちづくり事業関連と3点目の阪急京都線連続立体交差事業関連の質疑につきまして答弁させていただきます。

まず、2点目の吹田操車場跡地のまちづくり事業の中で、まちづくり計画委員会の負担金が平成24年度で16万円、満額を減額補正させていただきまして、平成25年度にも計上している内容についてということですが、こちらの吹田操車場跡地まちづくり計画委員会の負担金につきましては、吹田操車場跡地まちづくり計画委員会の開催に関する費用の負担分でございます。有識者への報償金や会場使用料、資料の印刷製本費ということで計上させていただいております。

もともと計画委員会は、まちづくりを具体的に推進するためにまちづくりにおける各方面の専門家からの意見聴取の中で、より整合性が図れた実現性の高い計画の策定等を目的とし、平成18年に設立されている委員会でございます。今年度、なぜ開かれてなかったかということにつきましては、まちづくりにつきましては全体構想と基本計画等もつくって事業をしていく中で、案件としては、

先ほどから話が出ております国立循環器病研究センターの動向、ここがまちづくりの一番大きな話となっております。

国立循環器病研究センターの動向が見えたら計画委員会や促進協議会を開いていく必要があるということで、1年前には、平成24年度中にはそういったことも決まっていこうということですが、計画委員会の計上させていただいていましたが、その辺の動向がまだ見えなかったということで平成24年度につきましては減額させていただいております。今の状況から、平成25年度には決まって計画委員会が開かれるだろうということで、新規で16万円の負担金を計上させている状況でございます。

あと、3点目の阪急京都線連続立体交差事業につきまして、こちら調査委託料の600万円を平成24年度に減額した上で、平成25年度にまた新規で計上させていただいている件につきまして、補助決定との関連性というところですが、このワークショップにつきましては、阪急京都線連続立体交差事業を進めるに当たって地元住民と懇談会を開いていくことで、本当に事業が進むのかという動向をある程度つかんだ上でということになってきます。

今年度なぜ開けなかったかといいますと、実際の国費の決定というのも含めてですが、大阪府として本当に事業実施するのかという方針が最終的なところでまだ出ておりませんでした。平成23年度には大阪府の都市整備中期計画（案）において、今後10年以内に着手ということがうたわれましたが、あと、大阪府の建設事業評価審議会という、10億円以上の新規事業につきましては大阪府としても審議をする場というのがございます。これが年度当初には開かれるとは聞いて

いたのですが、開催がおくれまして、最終的に先月の2月14日に大阪府として、連続立体交差事業の事業実施だという方針決定が出されました。これで大阪府としても事業を進めていくんだという姿勢が出ました。これが出るまでは地元に入っても、本当に進むという担保がないということになってきますので、なかなか今年度は入ることができなかったんですが、大阪府として事業実施ということになりましたので、実際に連続立体交差事業としては進んでいくんだということで地元には今後入っていけると考えております。

○藤浦雅彦委員長 新留都市計画課長。  
○新留都市計画課長 阪急正雀駅前地区整備支援事業について、地元主体のまちづくり活動への支援ということで予算計上して今まで動いてきているわけですが、正雀地域については以前から阪急正雀駅前の整備につきまして、阪急京都線連続立体交差事業の検討を初め、駅前広場や再開発の計画など、さまざまな検討を行ってきております。

ただ、バブル崩壊による社会経済情勢の激変を受けまして、これらのことについて地元商店街や地区の住民の方々とも我々話し合ってきた経緯から、ハード面の再開発の実施は地元の合意を得ることが非常に難しいということを我々行政としても認識しておる状況でございます。

それらの事実を認識した上で、先ほどもありましたが、ハード面の道路整備は道路管理者のほうでも今、土木下水道部で受け持ってもらっておりますので、主にソフト面のまちづくりについて地元住民の方と一緒に考えていく機会を継続的に実施するということが必要であるとの考えからこのワークショップによる懇談会を今、行っておる状況でございます。

このワークショップにつきましては、

平成18年から月1回の割合で市民の自由参加とし、最初は有識者も呼びながら、近年では行政と市民によるワークショップ形式による懇談会を開催しております。参加者の皆さんの意見を聞き、また、参加者同士での意見交換を図っております。

正雀地区につきましては、行政と市民の協働によりまして、やはりそれぞれ何ができるのか、また、何をすべきかについてはこれまで話し合いを継続的に根気よく進めてきておりますので、ワークショップから派生するさまざまなまちづくり活動に対して必要に応じて支援してきたところでございます。

それから、千里丘西地区市街地再開発支援事業の、再開発推進団体等補助金1,500万円の中身として、コンサルタントに委託していくわけですが、これから準備組合からコンサルタントへ委託していくスケジュール的なものとして、平成25年度に入りまして国から1,500万円のうちの3分の1が交付金として市のほうに一旦入ります。その500万円と1,500万円の3分の2の残りの1,000万円を市のほうでプラスしまして、1,500万円で準備組合のほうに補助金を出していくと。その後、準備組合のほうからコンサルタントに委託の手続きをとってもらおうと。それから具体的に動いていくというような流れでございます。

○藤浦雅彦委員長 森西委員。

○森西正委員 阪急正雀駅前地区整備支援事業は、以前からこの委員会でもいろいろと質疑があって、地元の方を中心としてされてきたというのはよく理解しております。

このままいって、阪急正雀駅前で急に変化があるとかというのは考えにくいと思うんですけども、今、ワークショップに参加をされている方というのは、日々

の動きをどうするかというようなそういうふうな観点でもって考えておられてワークショップに参加をされているというふうに思いますので、その点は、やっぱりなかなかワークショップに日々参加をされている方から変わった発想と言いますかね、急な転換と言いますか、なかなか難しいと思いますので、その点はやはり行政側が入っていただいて知恵を出していただいて、発想の転換なり違う考えなりを起こしていただきたいです。私も今、何か案があるかというとなんなんですけれども、ぜひともよろしくお願ひしたいというふうに思います。

続いて、吹田操車場跡地まちづくり事業ですけれども、国立循環器病研究センターの動向を見てということですが、有識者というのはどういうふうな方が入られるのか、そして、吹田市とどういうふうな関係でもってこの委員会をつくれるのか、摂津から担当のほうが入っていくのか、その点、お聞かせいただきたいというふうに思います。

続いて、阪急京都線連続立体交差事業ですけれども、平成23年度に今後10年以内に着手する予定ということで大阪府の都市整備中期計画（案）に位置づけられたと。そして、2月14日に事業の実施というようなことでその方針が決定をされたということでもありますけれども、そうしますと、平成23年度で今後10年以内に着手するということですから、これは平成23年度、平成24年度にはもう着手するというふうなことで摂津市としては考えるということですか。

そして、2月14日に方針決定というふうなことでありますけれども、今後25年度に補助決定をされるというふうなことでありますと、その後何らかのまた働きかけなり何なりというのが必要に

なってくるのか、平成25年度に補助決定をされると、あとは平成23年度のとくに10年以内に着手するというふうなことで決められてますから、それに向かって、ただ粛々と進んでいだけなのか、大きな問題とか課題というのが出てくるのか、お聞かせをいただきたいというふうに思います。

千里丘西地区市街地再開発支援事業についてですけれども、この点も、何とか前に進むような形でよろしくお願ひしたいというふうに思います。

なかなか今までの部分というのは、いろいろ検討されてきたけれども前に進んでなかったというふうな部分があります。そして今回は吹田操車場跡地まちづくり事業の関連で千里丘中央線という道路も、つくられて動いてきますので、それに結びつける動線というのはこれは絶対に必要でありますし、歩道の話もありますけれども、歩行者の安全の確保というのは必ず進めていかなければならないというふうに思います。

その中で、今までの考えと違った考え、地区を変更していかなければならないということも生じてくるかもわかりません。その点、今どういうふうな地区の変更とかそういうふうな部分というのを考えていくのか、お聞かせいただきたいというふうに思います。

○藤浦雅彦委員長 品川都市計画課参事。  
○品川都市計画課参事 森西委員の質疑にご答弁させていただきます。

まず、吹田操車場跡地まちづくり事業関係のまちづくり計画委員会につきましてですが、どのような有識者が入っているのかということと、摂津市のほうではどのようなメンバーが入っているのかというようなご質問だと思います。計画委員会自身については、組織として計画

委員会と促進協議会という2つの組織に分かれております。

計画委員会につきましては、委員が10名おりまして、摂津市のほうでは摂津市長が入っております、ほかには阪大病院長、関大教授、国交省近畿地方整備局長、大阪府の副知事、吹田市長等という方々で計画委員会のメンバーは構成されております。

また、促進協議会につきましては、委員が14名おられまして、摂津市のほうにつきましては、副市長がメンバーとして入っております。ほかのメンバーにつきましては、商工会会長でありますとか、医師会会長、関西電力、大阪ガス、NTT、JR西日本等ということで、もちろん吹田の副市長等も入っておるといようなメンバー構成になっております。

あと、もう一点、阪急京都線連続立体交差事業につきまして、大阪府の中期整備計画（案）の中での今後10年という表現等と、今後どういった働きかけが必要なのかというようなご質問ですが、まず、大阪府の都市整備中期計画（案）といたしますのが、これが大阪府の事業を今後10年間でどういう事業をどういう形でやっていくのかという10年間スパンで考えている計画ということになっております。

平成23年度に策定しておりますので、そこから10年後には今回の阪急京都線連続立体交差事業は着手していると記載されています。10年後に着手するというわけではなく、表現としまして10年後、平成32年のときにはもう着手されてるといような表現というのが大阪府の都市整備中期計画（案）というものでございます。

あと、大阪府への働きかけ等ということになりますが、まず大阪府としまして

は、中期計画にのらないことにはまず事業をやっていけないという中で、今年度、平成24年度には新規事業としての建設事業評価審議会にも諮りまして、実際に事業を進めていくという答えを出しました。

もう一点、大阪府が公表しております大阪府の平成25年度、来年度の予算概要において、連続立体交差事業の中で阪急京都線摂津市付近をあげております。府費の予算としましても平成25年度はやっていくという、もちろん大阪府のほうも議会中でございますので、まだ予算案ではありますが、大阪府としてもやっていくつもりだということは明確に出しております。

あと、事業としまして実際に国費決定がされますと、基本的に事業は進んでいきますので、その先またどこかに要望をかけていくというようなことは基本的にはなく、事業としては進んでいきます。事業上の問題というのは、またほかには事業を進める中では出てくるとはしましても、事業としては進んでいくであろうというふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 新留都市計画課長。  
○新留都市計画課長 阪急正雀駅前地区整備支援事業でございますが、ワークショップをやっているがワークショップの中ではなかなか市民からの発想が出にくいというようなことで、まちづくりの発想として行政側が考えていかなければならないということであったと思うんですが、正雀地域におきましては、現時点で大阪府が今、施工しております十三高槻線の正雀工区、これも平成25年度末には完成してまいります。それから、阪急正雀駅前の公共交通を含めた交通アクセス上の問題とか、今、土木下水道部で取り組んでおります地区内の道路整備等もござ

いますので、我々もできるところは情報提供もし、土木下水道部とも連携を図って進めてまいりたいと考えております。

それから、千里丘西地区市街地再開発支援事業の状況で、これまでもさまざまな検討をやってきているけれどもなかなか進んでないということで、何とか前に進むようにやっていただきたいということであったと思うんですが、これにつきましても、前回は申し上げておりますとおり、我々も役員会に毎回出させてもらっております。その中で、理事会としても今回は最後のチャンスというような意気込みで、子や孫までにこういう問題を残したくないという意向で取り組んでおられますので、そういうことで進めていきたいと。

それから、地区の変更等を考えていくのかということですが、これにつきましても、準備組合や各権利者とこれから調査をしていく中で、協議をしながら調整し、区域取りをやっていきたいというふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 森西委員。

○森西正委員 そうしましたら、吹田操車場跡地まちづくり事業も阪急京都線連続立体交差事業も平成25年度でどうなるかによって今後まちづくりはどう動いていくのかという大事な年であろうかというふうに思いますので、その点は担当のほうもよろしくお聞きしたいというふうに思いますので、要望とします。

千里丘西地区市街地再開発支援事業も、近年中に動く可能性を持っているというふうなことで、その点もいい形になるように、ぜひともよろしくお聞きしたいというふうに思います。

阪急正雀駅前地区整備支援事業は、ご答弁を聞いていても難しいかなというふうに思うんですけれども、その点も関係

機関、庁内で協力をし合いながら、よりよいまちになるようによろしくお聞きしたいというふうに思います。

○藤浦雅彦委員長 森西委員の質疑が終わりました。

次に、大澤委員。

○大澤千恵子委員 おはようございます。

弘委員と森西委員が質疑をされましたので、私のほうは要約のみ質問させていただきたいと思うんですけれども、1つは、吹田操車場跡地まちづくり事業で、国立循環器病研究センター誘致ありきでまちづくりが進められていますが、万が一、国立循環器病研究センターが来ないということになれば、どれぐらいのデメリットが今あるのか。もし来なければ、その後どういうふうなことを想定されているのかということをお聞きしたいなというふうに思います。

もう一つは、先ほどの阪急京都線連続立体交差事業の件なんですけれども、先月2月14日に方針決定ができて、やっと事業ができるというふうなお話だと思うんですけど、今まで大阪府から市に調査費が出たと思うんです。

いつから調査費が出ましたか。何年ぐらいでどれぐらいのお金が出たのかということと、この調査は何をされたのか、具体的にお聞かせください。国費がおりた時点で事業が進められるということでしたけれども、今まで調査したんだから、もし国費が出たらすぐにでも始められるのか、調査の段階はもう終わったのかということもあわせてお聞かせいただきたいとします。

それから、千里丘西地区市街地再開発支援事業において、準備組合というのは、以前お聞きしたら、連絡をとるのも結構大変だったというお話があったと思うんです。そういった準備組合に1,500

万円の再開発推進団体等補助金を出されてるんですけど、一部の人間だけでこの補助金を使ってコンサルタントへの委託をやるようなことにならないのかというところで、その組織についてもお聞きします。

○藤浦雅彦委員長 それでは、答弁お願いします。

品川都市計画課参事。

○品川都市計画課参事 大澤委員の質疑に答弁させていただきます。

まず、吹田操車場跡地の国立循環器病研究センターについて、今、移転を誘致している中で、もし来なかった場合どうなるのかという点についてでございますが、今、誘致しておる場所につきましては、土地区画整理事業の保留地となっております。保留地を国立循環器病研究センターに買っていただくということを予定しております。

まず、土地区画整理事業としましては、この保留地を売却できないことには、今行っております事業についての収入の目処が立たなくなってくるので、これは事業としましては何らかの保留地売却を行っていく必要があるという中で、今、国立循環器病研究センターが来るであろうということ動いておりますので、もし来なければ、どういったところに売っていくのかを考える必要があります。ただ、まちづくりゾーニングとしては医療健康及び教育文化創生のゾーンということで定めておりますので、そういったまちづくりの観点からも、どういったことをしていくのかというような議論が必要になってきます。

それと、もしまちづくりの観点の医療・教育系ということも見直して、駅前ですのでマンション等という話になってきますと、本市で所有しております土地売却

にも影響が出てきますので、なかなか実際に国立循環器病研究センターが来なければということ、常に我々も施行者でありますUR等とも議論をしながら、そういったリスクも考えながらということでは進めているところではございますが、今後のまちづくりにつきまして、こういったことになっていくかというのをまた改めて協議していく必要があると考えております。

2点目の阪急京都線連続立体交差事業につきまして、今まで大阪府から調査費がおりていたのではないかとことです。連続立体交差事業の概略を定めるための調査を平成20年から22年度にかけて3か年で調査をしております。

これも同じく事業主体は大阪府で行っておりますので、大阪府が国費を取得してる中で、基本的には大阪府に対して摂津市が負担金を支払うというような形で平成20年から22年まで行っておりますが、内容によりましてそのまちづくりに関連するところ等につきましては、一旦大阪府が受ける負担金を摂津市のほうに負担金という形でいただきまして、摂津市が発注するというようなこともしながら、今後連続立体交差事業をどういう形でやっていくかという概略調査を3年間行っておりました。そういった意味で、大阪府からの調査費とおっしゃられているのは、大阪府から負担金をもらって調査をしていた事かと思えます。

そのような調査を含めまして、実際にこの連続立体交差事業についての実現可能性等につきましての概略設計等を行っている上で、国交省等にも資料を持って説明に行ってるという状況であり、あくまでも、以前行っているのは概略の調査でございますので、今後、来年度から国費を取得して行っていく調査というのは、

もう少し詳しい調査を行っていきます。  
ある程度詳しい絵がかけないことには実際の工事にはかかっていけないので、調査の中でも概略と詳細の二段階あるということでご理解をお願いしたいと思います。

○藤浦雅彦委員長 新留都市計画課長。

○新留都市計画課長 3点目の千里丘西地区市街地再開発支援事業の、再開発準備組合の件ですが、組合員になかなか連絡がとれなかった状況があるんじゃないかということですが、千里丘西地区の市街地再開発準備組合につきましては、昭和63年の3月に立ち上げされております。平成元年から事業協力者を決定し、準備組合が事業化に向けて進めてこられました。平成3年には事業協力者が撤退し、準備組合活動もなかなか進まないという停滞している状況がございました。

それから、平成23年から24年度にかけて準備組合がまた新たに主体となりまして、大阪府の都市整備推進センターのまちづくり活動サポート助成金を受けられまして、千里丘西地区の再開発事業に向けての合意形成活動を今、進めてきておられます。

平成23年度から平成24年度に進めてくる中で、平成23年度に準備組合として地区内の権利者、土地所有者、建物の所有者に対してまちづくりの意向調査を実施されております。このときに我々も一緒に入ってございまして、関係権利者を調べまして、全てお持ちするなり郵送で送るなりということで全部調べて情報提供をさせてもらっております。そういうことで、今後進めていきたいというふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 準備組合の組織体のことも聞かれていますので、誰が理事長で、どこに事務所を置いて、どういう組織な

のかということをもう少し補足して説明していただけますか。

新留都市計画課長。

○新留都市計画課長 準備組合につきましては、理事長は武友理事長です。

準備組合の事務所としては活動している事務所がございました。そこにつきましては、今現在も理事長が私費を支払って、事務所を継続して借りておられる状況でございます。

○藤浦雅彦委員長 吉田都市整備部長。

○吉田都市整備部長 国立循環器病研究センターが来なければどうなるのかという質問をいただいておりますけれども、我々の今の感触でございますけれども、非常に微妙だとは思いますが。

ただ、我々が聞いている話としましては、吹田市から入っている情報としては、国立循環器病研究センターのほうとしては、今、箕面市のほうに再度ヒアリングをかけ、そして吹田市にもヒアリングをかけて一定の方向を定めていきたいというご意向はあるみたいです。

ただ、いつかけたのか、また、その結果がどうなったのかということは、まだ我々のほうには届いてないんですが、それにつきましても、基本的に我々が聞いている話としては、箕面市の船場のほうには物件が建ち並んでいて、いろんな関係者が入り乱れるというような中で事業が国立循環器病研究センターのスケジュールに合うのかどうか。基本的に更地が条件に全てなっておりますので。

ただ、そうなりますと、吹田操車場跡地は区画整理が完了した保留地ですから基本的には更地です。文化財も調査している。いろんなことを含めると、メリットとしては吹田操車場跡地のほうが高いんじゃないかということと、もう一つは、先般もご説明申し上げましたけども、正

雀下水処理場が平成25年度をもって停止、解体、撤去という運びになろうかと思えますし、そうなりますと、吹田市が国立循環器病研究センターにプレゼンテーションをしているリザーブ用地が担保できるということは前の本会議でもご答弁申し上げたとおりです。非常にレベルが上がってきたというような実感を持っております。

ただ、問題は、向こうがいつ公表するかというこの時期が我々としては非常につかみにくい状況になっておるとというのが現状であります。

ただ、国立循環器病研究センターが来ない場合どうなるかということですが、先ほど参事からご説明させていただきましたけれども、やはり事業費に充てる保留地が国立循環器病研究センターに買ってもらう、国の施設に買ってもらうという前提になっておりますので、そのあたり、いつまで待てるのかということは我々はURなり吹田市なりに申し入れて、早く方向性を出してもらいたいと。事業主体はURでございますので、そのあたりの待てるリミット、これを出した上で最終的に考えていきたいというふうに思っております。

○藤浦雅彦委員長 大澤委員。

○大澤千恵子委員 千里丘西地区市街地再開発支援事業の、再開発準備組合の件なんですけど、明確な準備組合のメンバー構成とか、現在何人いて、今、理事長はわかりましたけど、そのほかの方がどれぐらいの人数いらっしゃるって、再開発推進団体等補助金の1,500万円を、どういうふうに使われていこうとしているのか、準備組合はそれを受け持てるのかどうかというのが私にはあまり理解ができないので、そのあたりもう一度説明いただきたいということでお願いします。

国立循環器病研究センターの件に関しては、非常に努力をしていただいで一生懸命やっただいでいるので、恐らく大丈夫だろうというような思いを持っております。

ただ、もしだめだったらどうなんだろうという、保留地に関してどういう方向性で動くのかということをお聞きしたかったので、これはもう結構です。ありがとうございます。

それから、阪急京都線連続立体交差事業の大阪府からの調査費なんですけど、今、調査費のほうは2種類あるというようなご答弁いただきました。今回も540万円の調査費を出されてます。これに関してはどこまでの調査費なのか、調査されたことは、具体的にどういうことを調査されたのか、これをお答えいただきたいと思いま。

○藤浦雅彦委員長 答弁をお願いします。

品川都市計画課参事。

○品川都市計画課参事 大澤委員の阪急京都線連続立体交差事業の調査費についての質疑にご答弁させていただきます。

まず、平成25年度で計上させていただいております540万円の調査につきましては、大阪府が行います測量や土質調査、詳細設計を大阪府が国費とあわせて調査を行うための地元市の負担金ということになっております。

確かに様々な調査がございまして、過去の3年間とは何が違うのかというところでは、ある程度今まである既存のデータ等を活用しまして、詳細に測量したり、土質調査をしたりということはせずに、それぞれ阪急電鉄が持っている資料や既存の図面等を利用しながら、実際に事業をした場合に、どのような構造をつくっていくのかということをお過去3年間にわ



たって検討しております。

その中では、例えば土質調査等を行っておりませんので、橋脚をつくる中でも、基礎を何メートル入れる必要があるのかとかというような詳細のところまでは検討し切れてない状況で、概算工事費等を算出いたしております。

今後、実際に事業をしていく中では、測量もして土質等の調査もした上で構造の検討を行い、詳細な設計を行って実際の工事にかかっていくという基となる調査となっております。過去の3年間はあくまでも概略的な概略設計と呼ばれるもので、今後、詳細設計を行うための調査を行っていくということになっております。

○藤浦雅彦委員長 吉田都市整備部長。

○吉田都市整備部長 先ほど、千里丘西地区市街地再開発支援事業の、再開発準備組合の件で、もっと明確にというお話がございましたけれども、再開発の準備組合につきましては、昭和63年3月13日の施行の千里丘西地区市街地再開発準備組合の定款を定めております。これに基づいて全てが動いているという形でございます。

事務所についてのお話がありましたけど、事務所の所在地も定款で定めております。事務所は摂津市千里丘1丁目7番7号に置くということでございます。そこに今、武友理事長が自分名義で借りておられて、そのまま看板を掛けて、もしも何かあったときはそこを使うということで、ずっとこの定款に基づいて借りていただいております。それは私費でございます。そういうことで、現在事務所もある。定款に基づいた内容で動いているというのが今の状況です。

メンバーでございますけれども、現在、地権者は53名、それと組合員はそのう

ち36名という形で、先ほど課長が申し上げましたように、来年度からの調査につきましては、今までアンケートでしたけど、コンサルタント側と役員、我々も含めまして直接意見を聞いて回り、基礎的な資料をつくっていかうという形も現在考えております。この中身は、全て役員会のほうで内容を定めて方向性を整理して、そのときに摂津市が技術支援なり、人的支援を含めまして資金も出しますけれども、人も口も出すという形になるかというふうに思っております。

○藤浦雅彦委員長 大澤委員。

○大澤千恵子委員 阪急京都線連続立体交差事業の件ですけども、詳しく載ってる資料を私のほうが拝見してなかったみたいで、申しわけありませんでした。

ただ、この調査費に関して、物すごくわかりにくかったということがありますし、今後この事業をやるに当たって、非常に大きなお金が多分動く新規事業になるかと思われますので、このあたり、せっかく国の補助金が出て実際にこれをしていく上で、いろんな形で土地の件も出てくると思うんですけど、そういった件を慎重に進めていかないと、なかなか到達点にいかないのかなというような気がします。

踏切に関しましては、非常に渋滞して、連続立体交差事業が行うことによって非常に市民にとってはいい事業だというふうに思っておりますので、今後いろんな方針決定がされて実際動くことになるといろんなことあると思いますけど、一生懸命努力して進めていただきたいなというふうに思います。

○藤浦雅彦委員長 大澤委員の質疑が終わりました。

暫時休憩します。

(午前11時52分 休憩)

(午後 0時59分 再開)

○藤浦雅彦委員長 再開します。

引き続き質疑を行います。

上村委員。

○上村高義委員 午前中の質疑の中で、ほぼわかってきたんですけれども、私からは2点ほどお聞かせ願います。

まず1点目が、阪急京都線連続立体交差事業の件ですけど、午前中の質疑の中で、2月14日に大阪府の事業が決まったということでありまして、そのことによって平成25年度の予算化されていくのだろうと理解していますけれども、2月14日は期末の非常に遅い時期だという印象を受けたんです。なぜ2月14日に決まったのかという、その経緯がわかれば教えてほしいということと、摂津市の場合は平成24年度当初予算でこの事業は採択されるのだということで、市としては、予算計上していたわけですが、今回、補正予算で600万円を減額して、平成25年度に、また、計上しているわけですが、2月14日に決まった理由がわかればお聞かせ願いたいということと、それまでに摂津市として、大阪府に対してどのような働きかけをされたのかなということをお聞かせ願います。

それと、千里丘西地区市街地再開発支援事業の、再開発推進団体等補助金1,500万円の補助金の件は、説明で大体わかってきたのですが、やはり、私は、何年間もずっと協議してきながら、なかなか進展しなかったと、地権者の思いがあって、理解が得られなかったところもありますけれども、ここで1,500万円の予算を計上された趣旨があるはずですよ。

市としての意向もあるでしょうし、準備組合のほうの意思もあると思うのですが、そこらの思いというものが、

どういう形でこの1,500万円に出てきたのかなということをお聞かせ願いたい。

○藤浦雅彦委員長 品川参事。

○品川都市計画課参事 ただいまの上村委員の質疑にご答弁させていただきます。

大阪府の事業評価審議会の結果が2月14日に出たということで、なぜ、こんな時期まで遅くなったのかということについてですが、まず、もともと大阪府としましては、都市整備部で所管しておりました事業評価委員会というものがございまして、連続立体交差事業につきましては、都市整備部所管の事業評価委員会に諮っていきこうと、年度当初は考えておりました。

まず、年度早々から諮ろうと考えていたわけですが、先ほども申しました東日本大震災の関係で、国費が非常に厳しいという話を年度当初にいただいております。事業評価委員会なり、審議会を通しましたら、ある程度の一定期間以内に、事業を起ち上げる必要があることもございますので、事業評価委員会に諮る時期を見定めており、先ほども申しました国交省本省等に話をする等、ある程度、一定の方向もついてきたという流れの中で、都市整備部所管の事業評価委員会に9月から諮り出してあります。

ここで、ちょうど同じく9月頃ですが、大阪府において議会の議決を得ずに要綱に基づいて懇話会として設置している有識者会議が問題視されるということがございました。この都市整備部所管の事業評価委員会が、まさにこの懇話会に当たってくるというようなことがありまして、改めて、条例に基づく建設事業評価審議会に諮り直しをするということとなり、11月末から建設事業評価審議会という、大阪府の中で一本化された審議会に諮り

だしたという経過もございました。まず、開始がおくれてしまったことから、最終的には、結果が出るのがおくれてしまったということになってございます。

本市として、大阪府に対してどういった働きかけをしてきたのかということですが、すけれども、連続立体交差事業は事業主体が大阪府でございます。

ただ、事業としましては地元市の動きというのもいろいろ出てきますので、大阪府とは、かなり連携して事業を進めていく必要があります、大阪府とは、事あるごとにいろいろ説明資料のやりとりでありますとか、会議を開いて密に連携をとって、今年度は動いていた状況でございます。

○藤浦雅彦委員長 新留課長。

○新留都市計画課長 千里丘西地区市街地再開発支援事業の件でございますが、これまで、なかなか地元の合意が得られなかったのに、今回、なぜ、1,500万円の予算が計上されてきたのかということでございます。先ほどもご説明させてもらっておりますが、平成23年度から平成24年度にかけまして、大阪府都市整備センターのまちづくり初動期活用サポート助成金を受けて、改めて千里丘西地区の事業化に向けての合意形成活動を進められております。

平成24年8月10日には、準備組合の総会もございました。

そのときに、市長も出席されておられます。

準備組合として、次年度以降、事業化に向けて進むということとなれば、その活動資金について、やはり市に対しても要請をしていきたいということで、総会の中で平成24年度の事業計画を決定されておられます。

平成24年10月23日には、準備組

合の臨時総会も開催されております。その中で、準備組合として、次年度以降、事業化に向けて具体的に詳細計画を策定していくことを決議されておられるという状況でございます。

組合としましても、先ほども申し上げましたけれども、これまで滞っていた分、そういう平成23年度の調査におきまして、意向調査も実施されております。

この意向調査の中で、6割の方がまちづくりに参加したいという意向をお持ちでございます。

そういうふうな事からしましても、組合としても、もう一度、地元の意向を組んでまちづくりを進めていきたいと考えておられるところです。

我々、市としましても、従来から千里丘東地区につきましては、再開発事業が平成5年に完成しておりますが、千里丘西地区につきましては、交通導線も悪く、安全対策も進んでおらないということで、再開発を主体に置きまして、整備を進めたいという意向がありますので、そして、従来から都市計画道路、駅前広場等の都市計画決定をしておりますので、それらを一体化した形で、再開発事業とリンクした形でやっていきたいという思いで考えております。

○藤浦雅彦委員長 上村委員。

○上村高義委員 阪急京都線連続立体交差事業が2月14日に決まった経緯を説明いただきまして、今、聞いていますと、大阪府内の組織の手続き上の問題があっただけということですけども、そういう説明を聞くまでは、大阪府の関心が薄いのではないかなと危惧していたのですけれども、そうではないのだと、大阪府としては、この事業は最重要課題として位置づけてやっていくのだと、ただ、手続き上の問題で延びていたということ

でありまして、やはり、そういった状況があったとき、市としてもきっちりと向こうに早くしてくれという要請活動してもらわないと、また、平成25年度になったときにも、そういうことがあったときに、延びて、この事業が危惧される状況になるということがないように、ぜひ、お願いしたいということを要望しておきます。

それと、千里丘西地区市街地再開発支援事業の1,500万円の補助金の件ですけれども、今、説明がありましたけれども、今の説明では、市の意向というのは、若干、弱い気がするのですが、私が思っていますのは、千里丘西地区市街地再開発は、以前から重要事項だというふうに言われていましたけれども、ここにきて吹田操車場跡地まちづくり事業が進んできて、新しい道路もでき上がると、それが、千里丘駅の西口につながってくると、そういったときに、千里丘駅の西口と一体化したまちづくりというのも求められてきているのではないかなと思っています。

そういった意味で、今回、税金を1,500万円投入してでも、まちづくりのグランドデザインをしていくのだと、それを基に、地権者に提示しながら、地権者の意見も取り入れながら、ここの構想を練っていく。そして、それに基づいて皆さんに説明して納得していただくというような方向をとったというふうに理解しているのですが、それで、地権者の中では賛成、反対があるということでもありますので、合意形成を得るために、ここは1,500万円を投資して、それで結論を得るのだという強い意志があると思うのですが、そこらをもう一遍、摂津市の1,500万円を投資する意思というものを再度、答弁をお願いしておき

ます。

○藤浦雅彦委員長 吉田部長。

○吉田都市整備部長 委員がおっしゃる部分は、我々も痛感しております。

それは、当初、昭和63年、この準備組合が設立をされまして、今日に至るまでに相当周りの環境が変わってきたということがあります。

まず、1点目は、千里丘のガードが拡幅された。

次に、吹田操車場跡地が動いて、先ほどご説明申し上げました平成28年には、千里丘中央線が千里丘三島線まであたっていくということは、千里丘駅西口の交通安全対策は、もうこれは、待たなしの状態にだんだん近づいてきます。

もう1点、これは、土木下水道部が所管いたしますけれども、バリアフリー化、そして、エレベーターの設置は我々都市整備部で担って、整備していくというような流れが出てきました。

となりますと、あの駅前を今のままでいいのかというような安全対策、安心をどう提供するのだというのは、これは、行政の責務でございます。

それに合わせて、その責務を果たすためには、当然、今、委員からもお言葉をいただきましたけれども、一体的なまちづくりというのが、重要な要点になってきた。それも、我々は準備組合の役員会に常に参加しておりますけれども、役員の方々がおっしゃるのは、非常に駅前は危ない。

我々は、この時期を逃がしたら、千里丘駅西口の安全対策はもうできないだろうということを役員は全て理解していただいております。

今回、調査をやりますけれども、都市施設の整備も含めて、検討を我々事前にやっておりますけれども、大体、半分く

らの駅前広場でいけるじゃないかと。

公共投資は、半分弱になっている。それが、やっぱり事業としてやりやすいのか、ただ、中の交通処理も今後考えてまいりますけれども、やはりそういう面で、支出を抑えながら、実効性のある内容等、それと連動したまちづくりということが、今、役員会の中では、共通の理念になっております。

もう1点は、やはり、公共施設を少なく、駅前広場を必要最低限にすることによって、民地が残せます。

これは、新しい制度で、今回取り入れていますけれども、防災街区整備事業というのは、新しい制度で、前もご説明したと思いますけれども、土地と建物、土地だけ残したい人は土地だけを交換しましょう、再開発ビルに入る人は、土地ではなしに区分所有してもらいましょうというような、今までは、ビルの中に全てを入れていただくというのが、再開発手法でございますけれども、今回、我々が考えております手法は、先ほどありましたアンケートを基本にして、少なくともご理解をいただけるような、誰もが平等に権利を主張できるような内容の整備計画をつくって行って、市も連動して、この調査の中で市が役割を果たすべき内容を再生させる。これが一体的なまちづくりの概念というふうに、我々は思っています。

○藤浦雅彦委員長 上村委員。

○上村高義委員 最後に要望したいのですが、物すごくわかりやすい説明をいただきましたので、千里丘西地区市街地再開発支援事業の1,500万円、投資目的はそれで十分理解できましたし、1,500万円投資することで、やはり前に進めていくのだという意思があるというふうに理解しましたので、ぜひ、投資を

有効に使っていただきたいというのをお願いしておきます。

○藤浦雅彦委員長 上村委員の質疑が終わりました。

次に、三好委員。

○三好義治委員 それでは、確認の意味を込めて質問したいと思いますが、午前中から出ております阪急正雀駅前地区整備支援事業で、ルート説明を聞きながら感じ取った点なんですけど、これもいろんな過去の経緯もありながら、現在に至っていると思うのですが、総合計画を見ても、平成32年では、まだ結果が見えていないような中身でございます。

今日まで、動いてきた部分と、今後、この町は何をするねんと、この正雀駅前ってどうなるのかというのが、非常に、我々としても見えない部分がありまして、改めてお聞かせいただきたいと思いますが、やはり、まちづくりにつきましては、行政の責任という部分では、安全、安心、利便性、こういった所に行政の責任という部分があります。

だから、阪急正雀駅前について、行政として考えているコンセプトって一体何でしょうかということをお聞かせいただきたいと思います。

今まで、新留課長がご答弁いただいたワークショップでソフト面の人材育成に取り組んでいるというようなニュアンスの話だったと思いますが、この阪急正雀駅前商店会もありまして、ここでは、産業振興課がいろんなシャッター通りの活性化のために、それぞれの近隣のある大学の方々と協力しながらワークショップをやり、商店街の活性化に取り組んでおります。

一方では、十三高槻線の完成後には、府営住宅のほうまでの道路拡幅も完成さ

せて、バスも誘致していこうという計画がありまして、本来、都市整備部では、この正雀駅前で今年度予算の12万3,000円でワークショップを入れておりますが、本来の業務とは、一体何ぞやということ、今年度の目標として何を置いているのかお聞かせいただきたいというふうに思います。

それから、吹田操車場跡地まちづくり事業の関連でいきますと、補正予算の6ページで、3,036万8,000円と、公園整備負担金、2,500万円、この2つが繰越明許費であっております、土地区画整理事業の負担金につきましては、了解いたしました。

ただ、この2つの事業の繰越明許費で約5,500万円、このまちづくりは、平成28年度、それぞれが完成年度とされていると思うのですが、今、トータル予算が当初40億円とか、43億円とか言っておりましたが、現時点における最終的な予算が幾らぐらいになっているのか。

もう1点につきましては、千里丘公園整備負担金が繰越明許になった理由が、障害物が出てきて管理棟の基礎ができなかったと。その費用負担は、これから追加も発生してくるというふうに思うのですが、ここらの事業計画が一体どうなっているのかという点についてお聞かせいただきたいと思います。

加えて、この千里丘公園整備の概要で、以前いただいた資料を見ますと、この管理棟につきましては、備蓄倉庫とトイレと管理事務所の範囲になっているのです。

この公園につきましては、一時避難地という指定をされておりますが、東日本大震災の以前にこの計画が組まれたように、私は認識をしております、あの震災を教訓にして、この地域においてでも。

一時避難地だけでなしに、一次避難場所も一方では必要ではないかというふうに感じております、現在、この管理棟がまだ工事着手、基礎工事のほうにかかっておりますが、1階建てなんです。それも備蓄品、備蓄倉庫だけになっておりますが、もともとの計画であった、避難地対象区域、このエリアから見て、一次避難場所500メートルエリアで行ったときに、ここで行きますと市場池公園、それから、千里丘、小学校のグラウンド、これからはずれているから、ここで一時避難地として公園をつくりましょと、しかしながら、避難場所としては、やはり、このエリアからはずれているのです。

だから、東日本大震災以降に、やっぱり検討しなければならない課題が、今、たくさん出てきたと思うのですが、これは、防災の観点からも連動しなければならないのですが、これをどういうふうに認識しているのか、都市整備部からだったらなかなか答えられない部分があると思うので、防災の視点から、この管理棟という位置づけをどう考えていっているのか、この点についてお聞かせいただきたい。

それと、もう1点、これも以前いただいた工事工程表を見ていきますと、ここでのまちづくりで防災公園の街区整備事業の平成23年から平成26年度、要は再来年の3月に完成時期になっているのです。

そういったところで、先ほども出ていました都市型居住ゾーンというのが、国立循環器病研究センターの関連でいきますと、国立循環器病研究センターがこの6月ぐらいには、ある程度審議会で決定されるかもわからないというのが、マスコミ情報ではありますが、方針で出されていると。

我々は居住ゾーンにしています。これが医療クラスターになってくる。さっきの話の続きになってくるのですが、これが、平成26年の当初にはもう住宅施設等の建設入居の時期になってくるのです。

そこで、医療クラスターとは、国立循環器病研究センターの資料を見ますと、医療施設を支援する施設であって、その中身については、ホテルとか、幼稚園とか、商業地域、こういったことが医療クラスターの中に入ってくるというふうに着られているのです。

それだったらそっちの方向ででも、両方またいでいけるのだったら、今の居住ゾーン、この間いただいた吹田操車場跡地まちづくりガイドラインだけでいくと、これは、もう居住ゾーンだけなんです。国立循環器病研究センターが来る、来ないというよりも、これだけ前面に出てきているのです。

しかし、国立循環器病研究センターが、今回、確定されると、医療クラスターに変わるわけです。このガイドラインをまた変えていかなければならないと、居住ゾーンと言う基本的な構想を変えて、こっちに動いていかなければならない。この判断時期は、非常に微妙なところに来ていると思うのです。

ならば、その医療クラスターと言う部分で、医療産業系だけでなしに、そういったスーパーとかビジネスホテルまで誘致できるような構想ならば、このガイドラインのほうをもうちょっと幅広い視点に立って考えていってもいいのではないかと、この点について、お聞かせいただきたいなというふうに思います。

それから、千里丘西地区市街地再開発支援事業の関連なんですけど、昨年いただいたアンケートで、まず補助費500万円、摂津市の持ち出し1,000万円、

それで1,500万円がこの事業を行います。

それで、代表質問で確認した、5年間だということを改めて聞きたいと思えますし、この補助金というのは、単年度だけですか。1,500万円だけで、この5年間のうちに、また予算要求しないですか。この1回だけですか。

その中で、事業の最終年度の5年後、平成29年度には、ある程度もう見えておくと、そのときに、市としてどういうふうに判断していくかということは、また、後ほど聞かせていただきますけど、その中で、1,500万円、調査対象者50名なんです。1件当たり30万円かけてあります。

このアンケートの中身を改めて見ますと、アンケートを対象を50名にしたうちに、43名の方々から回答をいただいたのです。そのうちに、まちづくりで今のままでよいという回答が5名あったのです。

それと、多分、同じ方だと思うのですが、再開発によるまちづくりに参加したくないという方も5名です。これは同じ5名だと思うのです。50名のうち、協力していない7名とこの5名を足すと12名、対象50名中12名です。12名のうち5名は参加したくない、残り7名は、アンケートにも参加していないのです。

こういった状況の中で、本当にこのまちづくりというのが、この1,500万円をかけて前に進むのかなというのが非常に危惧されます。この点について、お聞かせいただきたいと思えます。

○藤浦雅彦委員長 それでは、答弁をお願いします。

品川参事。

○品川都市計画課参事 三好委員の吹田

操車場跡地まちづくり事業に関する質疑に答弁させていただきます。

まず、補正の中で、今回、千里丘公園整備負担金を2,500万円繰り越しさせていただいている理由については、管理棟を建築してている中で、想定外の基礎が出てきたため、年度内で終わらなかったということで繰り越しをお願いしている状況でございますが、この想定外のものが出てきたことによる費用負担が、まず、増えるのかどうかというご質問かと思えます。

この件につきましては、もともと鉄道・運輸機構から購入した土地の中で、隠れたる瑕疵として出てきたものでございます。

これにつきましては、UR都市機構から鉄道・運輸機構に話をしまして、費用につきましては、鉄道運輸機構が持つということで、出てきた基礎に対する費用の新たな発生というものは生じておりません。

期間については、これが出てきたがために、管理棟の建設が遅れるということで、今回、繰り越しをお願いしているという状況になってございます。

それも含めまして、資金計画という話の中で、トータル44億円といたしますのは、摂津市の負担分、あと吹田市の負担分でありまして、大阪府の負担分を総てを合わせた数字になっております。

これに対する資金管理等は、もちろんしている中で、これにつきましては、本市が事業当初に土地を購入いたしました14億円も入っておりますので、現在の予算を含めた進捗と言いますと、かなり費用としては、最初に土地を購入している分が上がってきてまいります。もう一つ、わかりやすい意味での土地区画整理事業全体の事業計画に対する資金につい

ての事業進捗という意味で考えますと、平成24年度が終了した時点で39%の事業進捗を凶っているという段階になっております。

現状、本市が負担している予算等につきましては、平成24年10月に公表されております中期財政見通しの中で平成23年度決算までは数字が揃っているのと合わせて、平成24年度につきましては、今回、繰り越しと補正をお願いしている関係で、数字が少し変わっています。また、その分、平成25年度は当初想定していた数字より後送りになった分が増えてくるということにはなってございますが、中期財政見通しに合わせて、予算管理をさせていただいております。

あと、千里丘公園の管理棟につきまして、都市整備部で答弁できる範囲で答弁させていただきます。

まず、千里丘公園は、災害発生時の近隣住民の一時避難地となる近隣公園として整備をいたしております。

通常時は、普段使いの公園として利用できることになっております。

管理棟につきましては、おっしゃるとおり、備蓄倉庫やトイレという機能を有しております。

あくまでもここの公園は、災害時の一時避難地ということで、避難所としましては、近隣には千里丘小学校と千里丘公民館が、摂津市の地域防災計画で規定されておりまして、災害が起こったときに、まず、避難する場所ということで広場を確保しています。避難所としましては、そのような実際の避難所に移っていただくということになってくると考えております。

あと、国立循環器病研究センターに係りましての医療クラスターの形成とまちづくりガイドラインの関連等について



ですが、もちろん、国立循環器病研究センターが中心街区に来た場合には、その周辺に何らかの医療クラスターの形成等が必要になってきます。本市の基本計画におきましては、その国立循環器病研究センターの隣である7街区、それと、吹田市の正雀下水処理場跡地、こちらのほうも含めて、都市型居住ゾーンということで位置づけさせていただいております。

この中で、国立循環器病研究センターが来たときに、基本計画等の変更というのがもちろん見込まれてくるということは考えております。

ただ、どこまでの範囲を実際、全て医療クラスターに変えるのか、その7街区については居住ゾーンのままだでもいいのではないかというようなこともあっておりますので、その点について、担当として考えておりますのは、医療クラスター等の関連は、やはり正雀下水処理場跡地のそのスペース部分になってくるのかなと考えております。

スーパーやビジネスホテル等についてですが、こちらにつきましては、国立循環器病研究センターが来る、駅前広場の反対側、岸辺駅を降りて北に向かって左側、こちらも保留地がございます。こちらで、何らかの施設等が呼び込めないかということで、施行者のUR都市機構等も、そのようなことをいろいろと検討しているところでございます。

○藤浦雅彦委員長 新留課長。

○新留都市計画課長 阪急正雀駅前地区整備支援事業でございますが、まちづくりは行政の責任であるということで、その行政としてのコンセプトはということで、一言でいうのも難しいのですけれども、正雀駅前のまちづくりワークショップにつきましては、正雀駅前地区の将来象につきまして、市民が話し合いを通じ、

正雀地区を再確認して、まちづくりに何が必要かを考えていくための話し合いの場として設置しているものでございます。

正雀の駅前については、先ほども申し上げましたが、十三高槻線の来年春の供用とか、駅前への道路拡幅改良、これは、道路交通課で動いていただいておりますが、十三高槻線が完成してきますと、トンネルの上部利用とか、それから、先ほど、委員がおっしゃいましたように、十三高槻線から駅前へバスを引き込むことで、バスの転回する配置計画等々が都市整備部の役割として考えられると思いません。

都市整備部としては、それらをコーディネートし、調整を図っていくという形で考えております。

それと、このワークショップにおきましても、このような情報を提示しまして、ワークショップの中でまたご意見もいただきながら、ワークショップの意見を、市の事業に反映していくというふうに考えております。

それから、千里丘西地区市街地再開発支援事業でございますが、国費のもらえる期間が、5年以内に3年使えるということで3年間を予定しております。

市の補助につきましても、単年度ということではございますが、国の補助と同時進行をしてみたいというふうに考えております。

それから、平成23年度に行いましたアンケートでございますが、アンケートの中身で、6割はまちづくりに参加の意向を示していただいているけれども、50人中5人はこのままでよい、7名は不参加というようなことで、この辺がどうなのかということなのでございます。我々もこの方々たちにも、平成25年度、先ほど申し上げましたとおり、この補助金

を利用しまして、事業計画の素案を作成してまいります。

そういった中で、具体的な施設の配置計画とか、例えば、建物の整備計画とか、公共施設の配置計画とか、こういうようなまちづくりになりますというのを、具体的に権利者に提示して同意を求めている、合意形成を図っていききたいというふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 千里丘西地区市街地再開発支援事業の補助額と年数の話ですけども、単年度、総額で1,500万円なのか、毎年1,500万円です3年出るのか、もう一回、明確に答弁して下さい。

新留課長。

○新留都市計画課長 予定しておりますのは、平成25年度に1,500万円、これはまだ見込みですけども、平成26年度に1,200万円、3年目の平成27年度に300万円というようなスケジュールで調査を予定しておりますのでございます。

○藤浦雅彦委員長 吉田部長。

○吉田都市計画部長 補足して説明をさせていただきます。

前回の本会議におきまして、私が答弁させていただいた内容としては、来年から使いますけれども、有効期間は5年でございます。この5年の間に、3回の補助が活用できる。

つまり、平成25年度に、お許しいただければ1,500万円を使って同意形成に取り組む。

その次、同意形成の条件を整えるのに、1年あけましょうと、2年間で構想をつくっていく、構想がある程度まとまってきたら、これを実際の事業の採算ベースも含めて、次の段階に入ると。

だから、5年後にはこれでいこうとい

う場合と、例えば、お叱りを受けるかわかりませんが、1,500万円で結論が出てしまったと、そうすれば、摂津市は、その代わりに何をやるのだと、先ほど申し上げました駅前の安全なり、スムーズな交通処理、そして、周辺の変化にともなった対応、これを踏まえて、摂津市がそしたら来年は、もしも結論が出たとしたら、摂津市は次は何をやるのだというのをやっていくということでございます。

だから、余りそれ以上言いますと、準備組合に水を差すような話にもなりかねませんので、ただ、我々とすれば、この5年間で、最大5年間で結論を出していきたいと、今まで、先ほど言いましたように25年が経過しております。その中で、もうあと5年やったらどうなんかないところがありますけれども、それ以上やっても結果は25年と変わりませんので、我々はここで変化をもたらすというか、結果をもたらしていきたいというのが現実であります。

○藤浦雅彦委員長 三好委員。

○三好義治委員 阪急正雀駅前地区整備支援事業ですが、今、答弁もらってもその姿勢がもう一つ僕が思っているやつと、余りにもギャップが大き過ぎて。

先ほども言いましたように、阪急正雀駅前についてでも、もう20年近く前から、こういった都市整備部が所管している部分と、そして、生活環境部が所管している部分、それから、土木下水道部が所管している部分、その中で、鮮明に見えるのは、土木下水道部が所管している分については、道路整備を行い、安心安全のまちづくりに寄与しているということは見えてきております、

生活環境部が持っている駅前商店街の活性化、これは組合にも協力いただいたり、大阪人間科学大学からも協力いただ

いて、空き店舗を何とかなくして活性化を図っていきたいと、これもある程度、僕らは事業評価として、できる範囲の中でやっているのが見えているのです。

しかし、今の都市整備部のワークショップは、我々もホームページでいろいろ見てみたけど、まちづくりの人材育成に対しては、仕方ないようなワークショップであるかもわからないけど、我々が期待している都市整備部が所管している本来のまちづくり、都市計画マスタープランにいかに関わりつけていくかということには見えてこない。

だから、厳しいかもわからないけれども、ことし12万3,000円の予算計上しているけれども、一旦、凍結するぐらいの気概をもって、庁内で改めて議論をしながら、正雀駅前の商店街の活性化、正雀本町1丁目の活性化を、いかに図っていくか、その中に、駅前商店会で生涯学習部が所管している部分には、その商店街の事業主さんといろいろやっている部分があるのです。

あなた方がやっているワークショップには、事業主さんもおれば、その居住者の方もいるのです。

ですから、その居住者の中でも、現在のままでいいという方々も多数おるように伺っているのです。

だから、そのまちづくりを、今後、動かすためのキーワードは、僕は十三高槻線が地下部分も開通して、道路を整備する時がチャンスだと思うのですが、だから、ことしの12万3,000円は、ウォーキングがどうのこうのと言うて、都市整備部がやるのは違うと思います。

だから、一旦、ことしは凍結しながら、もう一回、庁内で仕切り直しをして、摂津市全体として正雀駅前の再開発事業にいかに関わり組むかと。

平成25年度というのは、第4次総合計画の平成27年度まで見直しの時期でもあるわけなんです。

ですから、総計を見直すぐらいの気概をもって、正雀の安全な道路網の整備、そして、商店街の空き店舗の解消、住みやすい住環境、こういったコンセプトを持って、もう一回仕切り直しするぐらいの思いはありませんか。

これ都市整備部長に聞くのは失礼なので、副市長にお願いします。前に進んでいなかったら、一旦、白紙に戻してやるというタイミングも必要だと思うのです。

ワークショップばかりで、これまでも12万円から20万円かけながら、毎年やってきたけど、ひとつも進んでない。行革で100万円を減らすのだったら、これを5年間凍結したら100万円浮いてきますよ。凍結しますよと言ったときに、ワークショップに参加されている6名以外に、どういうふうに思われるか、一方では、道路整備は進みますから、一方では商店街の意見も聞いていますから、行政は、何も停滞はしないのですけれども、本来の都市計画事業とは何ぞやということをもう一回、見直す時期が来ていると思いますので、ご答弁をお願いしたいというふうに思います。

それと、千里丘公園整備の関係で、実際に、ここを一時避難地として設定をしたのは、今の千里丘小学校、それから、市場池公園、これの500メートル以内に場所がないですよということを考えた末に、千里丘公園という防災公園をつくりましょうということになったのです。

一時避難場所も、僕は同等の位置づけをするべきだと思うのです、ここは。

だから、今、小学校のほうとか、この市場池公園は、確かに一時避難地ですけど、ここにも管理棟はありますけれど

も、集会場を兼用した管理棟であって、あの場所で逃げれるとしたら、千里丘公民館か千里丘小学校ぐらいなんです。

ですから、これも計画を東日本大震災以降に組んだやつで、我々が縷々検討した結果がこれだというんだったらいいのですが、これは、東日本大震災以前に計画した部分なので、改めて東日本大震災を教訓にしたときにどうですかということ、今、問いかけているのです。

これからというのは、やっぱり東日本並びに、阪神淡路大震災ですけれども、ああいった教訓を後世に伝えていくという部分でいけば、これは、非常食とか、防災資機材を入れたりするのだったら、2階ぐらいにしなければ。例えば、和歌山県広川町の稲むらの火の館の防災倉庫を見てきましたが、そこには体験学習コーナーもおいていて、いざとなればそこが避難場所になると。広さは100平方メートルほどですけど、今の計画は。だから、そういったところも一度、全体の防災計画という観点から見たときに、副市長、見直しされたらどうですか。

せっかくここまで避難地のエリアを全部書いた上に防災公園として位置づけてきているのだから。

それと、これを見ますと、細かいことで申しわけないのですけれども、この公園には駐車場が1台もないのです。僕はこの防災公園ができましたというのを、摂津市の方々に認知をしてもらって、いざとなれば、こういった所に見学も来てもらいながら、また、一時避難地で来ていただいたらいいのと違いますかというニュアンスだと思うんだけど、1台も駐車場がないということは、仮に烏飼地区の人たちに一度見に行ってくださいと言ったときに、近隣の駐車場に車を停めてから行かないとあかんとか、というような物

すごく不便を感じるのです。

これを参考に、摂津市全体の公園と一時避難地の見直しも僕は必要だと思うのです。せっかくいい公園ができるのだったら、そういった駐車場の確保なんか、今の段階でいけるのと違いますか、数台は。非常食なんかを搬入する人でも、確かにルートは千里丘中央線が確保できました。

多分、車止めがあるから、そういう公用車はスッと入れると思うけど、一般の方々が見に行くといってもないので、そういった所の見直しはどうですか。予算審査の委員会なので、お聞かせいただきたいと思います。

それと、千里丘西地区市街地再開発支援事業の再開発推進団体等補助金ですが、我々が聞きたいのは、冒頭で言ったように、トータルで幾らかかるのか、そのうちの1,500万円なのか、それとも、1,500万円を1,200万円、300万円と分けて、そのトータルが1,500万円ですかという話なんです。

また、後で答弁いただいたらいいのだけど、それよりも、何よりもやっぱり50名のうち、7名の方がアンケートにも協力できなかった。5名の方はまちづくりに参加したくないというところで、やっぱり思い出すのは、いろんな全国的なところでいけば、一坪地主ということの中で、まちづくりをやろうと言ったら、一坪地主の方がおられて、そのまちづくりが進まないということ、やっぱり思い浮かべるんです。

だから、行政代執行という話もあるかもわかりませんが、今のこの調査段階の中でも、今のままでいいねんという方5名、50名のうちのアンケートに参加されなかった方7名、そのうちに大地主が多分2名おられる、そういった

ところを、今度、個別に見たときに、ここは、僕としても千里丘西地区再開発というのは、やらなければならない事業やというふうに思っているのです。

これをスムーズに進めるために、物すごく議論しておかなかつたら、それこそ1,500万円、もしくは、2,000万円投資したけれど、結局、何もできませんでしたとならないようにするために、我々が協力できるところは協力していかないとあかんし、行政が、今、困っている部分であるのだったら言うていただきたいし、必ずこの事業を進めていくのだと、そういう強い意志を確認しておきたいなということで聞いています。

○藤浦雅彦委員長 品川参事。

○品川都市計画課参事 三好委員の質疑に答弁させていただきます。

吹田操車場跡地の千里丘公園についてですが、まず、駐車場について、現状1台もないということで、せっかくの防災公園をつくっているのにということではあるのですが、あくまでも、通常時は近隣公園として利用する公園で、市場池公園や、庄屋公園と同等の公園であり、そこ、防災機能も備えているという趣旨からしまして、普段使いの公園としましては、自転車なり徒歩なりで来ていただくということを想定しております。通常時の駐車場としましては、地域住民の方々とワークショップ等も開いて、どういった施設を置くべきかという検討をした中で、広場をなるべく確保すべきということもあり、現状の形状をつくっている状況になっております。

また、災害時につきましては、委員からもご指摘がありましたとおり、バリカーをはずして車が入れるようになっております。

また、舗装等は大型車が入っても大丈夫

なようにしておりますので、普段の荷物の出し入れにつきましてもそうですし、災害時にはバリカーをはずして何処かを区切って一部避難者の駐車場にするということは可能ではないかと考えております。

一時避難地ではなくて、避難所とすべきではないかということで、先ほどから東日本大震災も受けてということではありますが、現状としまして、避難所と指定されているのが小学校でありますとか、公民館であるということで、一時避難地よりは、もう少し広い範囲の方が逃げてこられるような所であり、元からある程度の建物がある所が避難所になっているということになりますので、現状は、あくまでも一時避難地としての整備を行わせていただいております。

○藤浦雅彦委員長 吉田部長。

○吉田都市計画部長 まず、正雀のまちづくりで、市としてどういうコンセプトで対応しているのだということでございますけれども、実は、正雀につきましては、正雀駅前地区まちづくり懇談会を平成4年に設けて、その当時は、もうお亡くなりになりましたけれども友田会長でした。あの当時は、一応、メンバーとすれば、その周辺の自治会全ての会長と副会長にお入りいただいて、自治会でいきますと4自治会がございます。

それと、消費生活ということで、女性の委員にも入っていただいております。

また、商業者としては、あの当時、正雀まちづくり協議会ということで、各団体が集まってやられている正雀まちづくり協議会、それと正雀本町名店会の会長さんにお入りいただいて、まちづくり懇談会に対するご提言をいただいております。

我々、都市整備としては、その提言を

今日も基本にさせていただいております。

ただ、26年もたっていますので、そのあたりが時代も変わり、また、十三高槻線がすぐでき上がるということであれば、当然ながら内容も変わってきている、それと土木下水道部も動き出しているということもあります。

ただ、あのときにも、市民生活部と都市整備部がタイアップして、このメンバーにも入っており、また、意見も言ってきました。

それともう一つ、平成10年度には、正雀の若手商人を集めた若手懇談会もやっております。

それは、この提言書に人づくりというような内容もございましたので、その趣旨に沿って人づくりの中でムードを上げていって、熟度を上げていこうというようなことで、あの当時、商業のまちづくり協議会、それと、若手懇談会、そして、次に住民をコアにした形で、今、ワークショップをいろいろやっていこうということで、そういう流れとしてはあるんですが、ございますけれども、ただ、目標を失いかけているのではないかなということで、今、先ほどご指摘いただいた内容になってきていると。

基本的には、安全に歩いていただけるようなまちにしていこうと、それに合わせて活性化というのが、全体のコンセプトになっておりますし、今でも使えるコンセプトは十分あります。

ただ、施設の関連については、大分、変わってきておりますので、見直しも必要かなとは思いますが、一番大事なものは、今後、ワークショップなりの中で、やはりこの趣旨に沿った、またこれを見直しながらも市として次のワークショップに対してどのような形で、また幅広く意見をもらうなり、そして、まちが

どうあるべきか議論していただくなり、こういうことの仕掛けをやっていくべき責務もあるのかなと。

だから、当初予算よりも、もう少し予算化しなければならない時期もあろうかというふうに思っております。

だから、我々とすれば、当然ながら、こういうご提言をいただいたという部分については、これを基本にしながらも、やっぱり踏ん張っていくべきところは踏ん張り、そして、コンセプトを出すべきことはこれを踏まえながら、やっぱりワークショップにかけていきたいなというふうに思っております。

次に、千里丘西地区市街地再開発支援事業でございますけど、再開発推進団体等補助金についてももう一度、ご説明申し上げますと、期間は5年でございます。そのうち、隔年ごとに3回の補助がとれます。

5年以内に答えをある程度出してきなさいというような内容です。

だから、今回の1,500万円は初期です。そのあと、事業のボリュームに依り、事業進むにあたってだんだんレベルが上がるのか、それとも、あと摂津市だけがやるべき内容を整理するのか、このあたりは、どこかの時点で見きわめていくという形になろうかと思えます。

だから、補助金としては、3回もらえます。1,500万円は、第1期目でございます。

もう一つ、50名のうち、7名の方がアンケートにも協力できなかった。5名の方はまちづくりに参加したくないというところでした。

ただ、再開発と申しますのは、当然、こういう事業は全て反対から始めるというのと一緒で、これが全部、12名の方が全員賛成だとこの再開発はできている

と思います。

これができないのは、やはり反対もあれば、推進もあれば、まだ考えているという方もいろいろございます。

だから、この1, 500万円を使いながら、やはり一歩でも二歩でも、再開発に近づいていきたいという意気込みで我々はやっていますし、なおかつ、大口地権者の方につきましては、アンケートを書いていただいています。

これは、初めてです。書いていただいたのは。

ということは、ある一定のところのご意見はいただけると、ただ、それが、先ほど言いましたように、ビルに入るのが反対だと、嫌だと、だけども土地ならまとめたいというご意見もございました。そのあたりのいろんな条件、個人個人の条件が必ず違います。これを一つにすることは不可能です。

だから、それは、ハードルとして越えていくための調査であり、市としての前向きな取り組みというふうに思います。

それがなければ、この再開発は出来ないと思っていますので、だから、市は、どこまで地元と一体になってできるかというのが、これからの大きな我々の使命だというふうに思っています。

○藤浦雅彦委員長 三好委員。

○三好義治委員 阪急正雀駅前地区整備支援事業について、吉田部長から答弁をいただきましたけれども、私もその話は同感なんです。

ただ、現状は前に進んでいませんやろと、だから、一旦、庁内でどこの部署が正雀駅前再開発に適していて、そこはコア事業として何をやるかということ、もう一回、組織で体制を整えたらどうですかというのが、私の提案なんです。

ですから、その中には、生活環境部も

土木下水道部もいてるし、都市整備部も入っている、やはり駅前が通勤ラッシュ、また一般で通るときにも、非常に危ない状況になっていると、狭隘道路であり、鋭角であり、だから、あそこの広場を広くしていただけたらというのが、多くの市民のニーズだと思うのです。

だから、そこをどういうふうに取り組んでいくかというのが、大きな課題だと思うのです。それは、きっかけは、今後、十三高槻線が延びてきたときに、府営住宅のところと定めるのか、駅前までもってくるのか、ようやく歩道整備までやりましょうと言って動き出したのだから、そういったところをコンセプトにまちづくりに結びつけていくということ、一回、検証したらどうですかと言って、副市長に今、振ったのですが、組織の再編ですから。

まちづくりについては、我々もやらなければならない事業だというふうに認識しているし、都市整備部もやらなければならない事業だと思っているし、市民だってやっぱりやりたいと言っているのやから、行政としてこういったまちづくりやりますよということ、やっぱりコンセプトとして投げかける。

これはどこの部署が適切なんかと言ったときに、今は、僕は都市整備部ではなしに、土木下水道部だと思うのです。

だから、ここを一回、庁内でその切り口をどないしていくのだということ、を要望しておきます。

すぐに回答は出ないと思うから。もし、答弁していただけるのだったら、全体的に言っていただいたらいいと思います。

それから、千里丘公園整備について、こうやって提案していても、はい、わかりました変えますとは言えないと思うから、これも庁内に持って帰って、防災の

所管部署と相談して下さい。もう一回、言いますよ、東日本大震災前に組んだ計画なんです。東日本大震災を教訓にして、防災拠点をどこに持っていくかということも、せっかくのチャンスなんです。摂津市全体の基礎的な防災備蓄倉庫になるのです。安威川以南は雨水の時は、まだ検討段階で、小学校の4階に上げたぐらいであって、階数の事だけではなしに、防災トイレができたり、いろんな施設がありますが、今日は、これも答弁はいいです。今、答弁はできないと思うから、これも庁内議論をして下さい。全体44億円のうちの、2,500万円の管理棟にある程度追加する話で、全体予算から言ったら税金の無駄遣いをやれと言っていないです。東日本大震災の教訓を受けて、今、我々が防災として何をしなければならぬかということをもう一回考えて、先ほど言った駐車場も含めて、やっぱり都市公園として位置づけていって、防災公園というサブテーマがある以上、都市公園ならば市民全体の公園として位置づけるのだったら、鳥飼からきても何台かの駐車場があるべきだと思うんです。

たまたま市場池公園は、隣にスーパーがあって、そこにある程度、買い物しながら休憩をさせてもらおうかというような所が結構多いように伺っているのです。

だから、そういうことも踏まえながら、今日はもう答弁はいいですから、せっかく、こういった計画をつくるから、そういったことも考えられたらどうですか。

それと、国立循環器病研究センターのことを言い忘れたので、最後に、要望だけしておきますが、国立循環器病研究センターが来たときの医療クラスター構想です。

医療クラスターについては、開発企業もあれば、保健健診センターもあれば、

クラスター支援機能というのがあるので、さっき言った正雀下水処理場の用地だけでは、もともと足りないのです。

やっぱり、居住ゾーンも入れておかないといけないし、医療クラスター以外のものを建てると、国立循環器病研究センターが来たときに30年後に建てかえるときに、今度は、費用が全部発生してくるので、今の正雀下水処理場の所と3ヘクタールの所は、国立循環器病研究センターが買収をして、医療クラスター構想に対して主導権を握ってやるような形になります。だから、そこを言っているのです。

そのときに、今後、我々が考えておかなければならないのは、あれを我々が今度売ったときに、国立循環器病研究センターが路線価格で買います。そしたら、医療クラスターとしていろいろ検討したときに、向こうの指向で入ったときに、いろいろ大変ですよと言っているのです。

だから、我々の主導権の中で、医療クラスターというのはどういうものを持ってくるのだと、昔から言っているように摂津市にはビジネスホテル等もない。居住ゾーンと医療クラスターとの準クラスターというやつはここにはめ込むんだと、正雀下水処理場のほうについては、医療クラスターの産業、医療というところを持っていくのだと、そういったことも検討していただきます。

居住ゾーンだけでいっておくと、いざ、国立循環器病研究センターが医療クラスター構想を打ちたてて、話が違ふというようにならないように、これについては要望しておきます。

千里丘西地区市街地再開発支援事業についても、費用が無駄にならないように、我々も全面的にこのまちづくりについては、協力を惜しまないので、千里丘西地



区の再開発実現に向けて取り組んでいた  
だきたいと思います。

最後に、都市整備部から駅前等再開発  
特別委員会に、これまでもこれだけの資  
料をいただいて、逐一報告を受けている  
ことについては感謝します。

吹田操車場跡地まちづくりについても、  
南千里丘のまちづくりについても、あな  
た方の努力に対して敬意を表しながら、  
僕の質疑を終わりたいと思います。

○藤浦雅彦委員長 副市長。

○小野副市長 例えば、千里丘西地区市  
街地再開発支援事業の問題でも、過去、  
全く進まない、同じことばかり言っ  
ているということ言われてまいりまし  
た。

それで、この千里丘西地区市街地再開  
発の問題について思い出すのは、この前  
の市長選挙のとき、新聞社の記者との話  
で、JR千里丘駅西口を見て、あれはど  
うされますかと、すごい状況ですね、再  
開発なんてできないのではないですかと、  
市長が選挙中ですから、副市長のコメン  
トが欲しいということでした。準備組合  
があるじゃないですかと。準備組合のほ  
うに聞いてくださいということで、朝日  
新聞に武友理事長が何とかしたいとい  
う記事がのりました。あれも一つの形な  
んです。

それで、私が思いますのは、吉田部長  
が言いましたように状況は変化していま  
す。千里丘西地区市街地再開発が、もし  
もできなかったとしても、駅前の交通安  
全の問題はどうしても解決しなければな  
らない、これは間違いないということは  
記者に申し上げました。しかし、千里丘  
西地区市街地再開発はあくまでも準備組  
合として頑張ってもらわないとあかん  
ということなんです。だから、その辺は地  
権者の方もあの状況を見ておられますの

で、吉田部長なり新留課長が言いました  
ように、これは何とかしなければあかん  
ということで、再開発推進団体等補助金  
で1,500万円という大きな中身がで  
きたと思うのです。

それから、もう一つ、阪急正雀駅前地  
区整備支援事業の問題ですが、友田会長  
から提言をいただいた当時の検討事  
項のうち、動いていないのが千里丘西地  
区と阪急正雀駅前地区整備なんです。

提言には更地化するくらいの気持ちで  
書いています。現状として、再開発とい  
うのは、そんなに簡単な問題ではない、  
厳しいというふうには言わざるを得ない  
と思います。

ならば、今、三好委員が言われたよう  
に、正雀駅前の交差点の所はどうするの  
か、一方通行をどうするのか、市民の安  
心安全から見たら、それが最優先ではな  
いかと。だから、阪急正雀駅前の再開発  
をどうするというよりも、市民の安  
心安全の中身で、十三高槻線ができ、買  
い物難民をどうするかという議論の中  
でどうしていくのか、バスをどう転回す  
るのか、取り次ぎをどうするのか、そし  
て、あの駅前の交差点をどうするのか、私  
はこの所を最重点で考えざるを得ない、  
その中の一つに商業の活性化問題も当然  
ながら入ってきますから、私は、これは  
これとして、今、はっきりと申し上げら  
れませんが、どういう形で今後、阪急正  
雀駅前の再開発を捉えるかということは、  
会長は亡くなられましたが、当時のメン  
バーもまだおられますので、そういうこ  
とも談義しながら、市の重点をどう持っ  
たかということ、やはり整理して、市は  
バラ色の構想を描くのではなく、現状の  
問題は現状の問題とおさえて、地元の意  
向を聞くということが、今、非常に重要  
な問題であるのではないかというふう

思いますので、三好委員からのご提案もいただきましたので、内部でももう一度議論した上で、担当部長間でも議論した上で、市の意思としてはどうするかということ、今一度、まとめをできればと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○藤浦雅彦委員長 三好委員の質疑が終わりました。

続いて、渡辺委員。

○渡辺慎吾委員 多くの委員が質疑をされましたので、本当に、それぞれのご意見が当を得たものだと思います。

さっき、副市長が言われましたが、阪急正雀駅前にしても、千里丘西地区にしても、まちづくりというのは、もう行政が携わることに対しては限界が来ているということが現実にあるわけであって、副市長がおっしゃるように、市民の安心安全を、まちづくりとは切り離して、両方の再開発に関しては考えていくべきではないかということをお願いしたかったです。

千里丘にしても正雀にしても、あの状態が何十年も続いており、そういう状況で市民に大きな事故が起きなかったのが不思議なくらいなことであって、これは地域の方々もほとんど100%の人がそういう形で非常に危険だということを感じているわけです。まちづくりを我が市でやっていくときに、そのことが非常に後手後手になってしまうということを危惧しているのです。

阪急正雀駅前のワークショップも単に学習発表会ではないのだけでも、本当に靴の上から足を搔くような状態がずっと続いているようなことで、一体、何がしたいねんということが続いたわけです。

だから、私は三好委員がおっしゃったように、ワークショップを一旦凍結して、

それとは別に安全面と言う形で、あその安全をいかに確保するかという形をしっかりと行政は打ち出すべきではないかというふうに思います。

そのことは、副市長が、今、ご答弁されたから、ご答弁は結構です。

千里丘西地区市街地再開発に関しては、私が議員になったときぐらいに千里丘駅の東西の再開発ということで、盛り上がってきたと思うのです。

東側のほうは、ああいう形で再開発ができたのですが、西側が、地権者の問題もあったり、さまざまな問題を経て、あのときは、大きな地権者は別として、外の地権者はまだ若かったです。それなりにエネルギーで一つのエネルギーを感じたことを、僕は覚えているのです。

その中ですったもんだしながらも、結局は大口地権者の意向が相当影響していたか、そういう形の状況の中で、頓挫してしまうような状況でした。

森山市長が、匂を逃してしまったなということをおっしゃっていたと思うんです。

匂を逃したことが、後々影響が出るのではないかというようなことを、市長が、何かの答弁のときに言われていたかなという気がするのですが、その後、準備組合がそれなりに活動していたかどうかかわからないのですが、それなりの補助を出して、行政も、額は少なかったと思うのですが、やってこられた中で、どんどん小口地権者が高齢化して行って、そして、次の世代に結びつけようということが、そういう気持ちもだんだん薄れてきたような状況の中で、しかし、大口地権者も時代の流れによって、それぞれのご事情があって、あの時代と、また、逆な面で大きく変わりつつあるということで、今回、そういう形で大口地権者の環境が変わったということで、予算化に

至った部分もあったと思うのです。

しかし、我々がこの何年間か見てきたときに、動かれなかったという事実がある中で、今回、1,500万円、3年間かけて3,000万円近いお金を出す予定なわけです。

ずっと過去の流れを見てきた中で、そのことが、我々の心の中でほんまかいなという気持ちが物すごくあるのです。

それで、3,000万円のお金を3年かけて出されて、5年後に結論が出なかった、ほれ見てみろということになるのと違うかな。そういう危惧が、どうしても私は払拭できないのです。

だから、例えば、さっき大澤委員の質疑で、準備組合の組織図を示してほしいとか、そういう点、私もきちんと示してほしいのです。

どれだけの方々が、どんな意欲を持って、この再開発に取り組まれているのか。

また、さっき三好委員がおっしゃったように、アンケートも書いてない、そして、また現状維持でいいという地権者がいる。その中で、どこまで行政が携わってきてできるのかということ考えたときに、安全対策は別にして、余りかわらないほうがいいのじゃないかというふうに思うのです。

全国的に行政がかかわったまちづくりで成功したなんか聞いたことがない。全く。

だから、そのような状況で、お金の使い方に私は危惧を感じる。組織図等の資料があるのだったら、委員長にお願いして、委員に配付していただきたいと思うのです。口頭で説明いただけるのであればご説明いただきたい。

それから、最後に、例の吹田操車場跡地の国立循環器病研究センターの件なんですけど、代表質問で市長からも非常に

力強いご答弁いただいて、あのご答弁を聞いていたら、ほぼ、吹田操車場跡地に国立循環器病研究センターが来るのではないかというふうに思うし、我々の願いが届いたのと違うかなというふうに思うのですが、何か、オリンピックの招致合戦とよく似ているような感じがして仕方がないのです。

関係者から聞くところによると、プレゼンテーションが全然違うということです。箕面市が行っているプレゼンテーションはプロが入って、すごいプレゼンテーションの仕方をしているのに、吹田市のプレゼンテーションというのは、コピー用紙で印刷したようなもので資料を出してきて、全然違うというのを聞きました。

そして、その関係者が非常に焦りを感じている。何かオリンピックの招致合戦みたいなもので、当然、さまざまな条件が必要ですけど、熱意が最終的な決定要素になっているのではないかというふうに思うのです。

そのような状況になって非常に、その関係者は焦りを感じている。そういう事実がある中で、大澤委員がおっしゃったように、もしか来なかったらどうなんねんという一抹の不安があるのです。

新聞報道しか聞いていないので、うさぎとかめではないけど、大丈夫と言っている、我々は不安を感じるわけであって、そういう点を払拭できるような答弁があるようだったらお願いしたいと思います。○藤浦雅彦委員長 準備組合の組織図については、出せるものを用意していただいて、後日、委員のほうに定款とか約款、メンバー表等と一緒に配付して下さい。

答弁もしてください。

新留課長。

○新留都市計画課長 千里丘西地区市街

地再開発支援事業の件でございますが、今まで、いろんなそういう経過があった中で、旬を逃してきたということもおっしゃるとおりだと思います。

準備組合の組合員が高齢化しておられるという点も非常に危惧しているところです。部長も先ほど申し上げておりましたとおり、アンケートをとったときに大口地権者の方にも意見を書いていただいております。我々もお会いして、市の意向、組合の意向も伝えております。そういう状況を踏まえて、改めて、準備組合も市も一生懸命取り組んでいるという生の情報を伝えて、平成25年度の具体的な中身をつくりましたら、直接、地権者に説明して、事業化につながるように、一生懸命取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○藤浦雅彦委員長 吉田部長。

○吉田和生都市計画部長 千里丘西地区市街地再開発支援事業で取り組んでいる事について説明させていただきました。

組織図等につきまして、定款がありますので、これはまた整理させていただきますけれども、現在、準備組合の役員として理事長が1名、それ以外に副理事長が3名、そして、それ以外の理事が7名おられます。それと、幹事が2名おられます。平成23年度以降の役員は、計13名で構成されているという状況です。

役員会を開く場合は、声をかければ、大体8名から9名ぐらい来られていますし、あと委任状も出してはります。そして、銀行も入っておられますので、そのあたりの構成メンバーになっております。

○藤浦雅彦委員長 副市長。

○小野副市長 国立循環器病研究センター問題につきましては、駅前等再開発特別委員会にご報告させていただいてきていますが、今日の段階で、それ以上のこと

はございません。しかし、吹田市の副市長も自信はあるというふうに言われておりました。経過から見たら、吹田操車場跡地を候補地とするかどうかの意向調査があった段階の内容とは全く違った形になってしまっています。

現在の国立循環器病研究センターの総長から考え方も聞いています。市長も聞いています、私も聞きました。土地利用の考え方まで、熱意を持って総長から聞いているのです。

昨年の6月に国立循環器病研究センター建替整備構想検討委員会で、箕面市のほうが可能性があるという意見が大半であったというものが出た、私ども以上に吹田市の当局、議会は悔しい思いをされてるのは間違いないと思っています。まさかということ、我々もそういうふうに思っていますので。

だから、先ほど、不安を払拭できる答弁はありますかということですが、私も頑張っておりますけど、新しい情報はございませんと言う以外、今のところございません。

それが本当のところでございます、これ以上のこと、私もまだ持っていない。市長の気持ちとしては間違いないのだけれど、私もそういうふうに思っていますけれども、確たるものは持っていない。

それから、千里丘西地区市街地再開発の問題は、前も言いましたように、一人の地権者が準備組合をやめて、市施工にすべきだと、無理だと、何回も言われました。

しかし、準備組合があるのに市が出ていくなんて、この費用負担は、すごいことになる。これはできないということが一つあります。

それから、もう一つは、千里丘駅西口の交通安全対策だけは何とかしなければ

ならない。何しろ、都市計画決定があります。見直しは厳しいですけど、一回しなくてはいけません。そして、どこに道路が入ってくるかとなりますと、我々も描けるのです。どこの土地を求めなかったら道路整備ができないのかもわかっているのです。しかし、準備組合の武友理事長が、並々ならぬ決意を持っておられ、我々も最大限に協力し、そして、実現に向けて努力すると、それを今は求めていくべきであると。

一方では、市としてはやはり、万が一のことも考えておくべきだろうということは間違いありませんので、見直し問題も大きな課題ですから、千里丘駅西口の交通安全対策をどうするかということがありますので、そのときは、また、具体的に申し上げますので、しばらくお時間をいただきたいというふうに思っております。

○藤浦雅彦委員長 以上で質疑を終わります。

暫時休憩します。

(午後2時34分 休憩)

(午後2時35分 再開)

○藤浦雅彦委員長 再開します。

討論に入ります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○藤浦雅彦委員長 討論なしと認め、採決します。

議案第1号所管分について、可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○藤浦雅彦委員長 賛成多数。よって、本件は可決すべきものと決定しました。

議案第9号所管分について、可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

○藤浦雅彦委員長 全員賛成。よって、本件は可決すべきものと決定いたしました。

た。

これで、本委員会を閉会いたします。

(午後2時36分 閉会)

委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

駅前等再開発特別委員長

藤 浦 雅 彦

駅前等再開発特別委員

渡 辺 慎 吾